

「新時代とやまハイスクール構想」実施方針（素案） に対する意見募集（パブリックコメント）

募 集 期 間	令和7年8月21日（木）～令和7年9月12日（金）
意見の提出	69 通（130 件）

※意見者等を特定できる情報及び他者の中傷するような表現を除いています。

＜序章＞令和 20 年度までに実現を目指す県立高校の姿（基本的な考え方）

No.	ご意見
1	・「人材」の育成との文言は、何かのために役立つための生徒と捉えており、個人の「人格の完成」をめざす教育基本法に反する。 ・カタカナ言葉は極力避けるべきである。目新しさの宣伝の意図がみえるが、県民には分かりづらい。
2	これからの県立高校の基本目標が「新時代に適応し、未来を拓く人材の育成」になるのはいいと思った。この先どんなことが起こるかわからない中で、自分の力で社会の変化を読み取り、社会に参加できるようになるのがいいと思った。
3	「県立高校の基本目標 時代に適応する人材の育成」 → 教育の目的にそぐわない。人材の育成ではなく人格の完成を目標とすべき。「レジリエンス」、「ウェルビーイングの向上」とはどういう意味か。全ての県立高校（全日制）を再構築し、新しい学校を設置する「新時代とやまハイスクール構想」と言うが新時代HSの定義がわからない。 ・昨年の意見交換会での説明によれば、必ず統廃合するというのではなく、今ある 1 校が再構築ということもあり得るということだが、そうであるなら、魚津工業、砺波工業がなぜ新時代HSと認められないのか。学科・コースの大きな見直しであるのになぜだめなのか。いったいどういう要件がそろえば新時代HSになったと認められるのか。 ・サテライト校はありうるのか。
4	「基本目標」について（素案 p1） 「新時代に適応し、未来を拓く人材の育成」というのは、「人格の完成」という教育の目的（教育基本法第 1 条）とどのようにつながるのか？意見交換会でも質問したが回答らしきものはなかった。「これまではうまく来た」富山県の高校教育を、「近年の課題、主に不登校やいじめなど（、加えて少子化）への対応のために必要」と考えての、「新時代とやまハイスクール構想」と言うが、この目標と「構想」「素案」のどこが「近年の課題」に対応するものになっているのか、全く理解できない。高度経済成長期の終焉後も「効率の良い人材育成」に偏った教育政策を進めようとしてきたことが、近年の子どもと学校、ひいては社会全体を困難に至らしめている原因であり、その点では「偏差値教育からの脱却」（自民党 PT の「提言」）の方が評価できる。「人を育てる」ことの原点に立ち返った再検討が必要である。
5	基本目標について ・教基法第一条「教育の目的」の中に明記されている「人格の完成を目指し、平和的で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない」という観点が皆無である。就中、主権者を育てるという認識が抜け落ちている。 また、学校教育法第 50 条「高等学校教育の目的」で、「高等学校は、…心身の発達及び進路に応じて、高度な普通教育及び専門教育を施すことを目的とする」と明記しているが、「新時代 HS」は、「多様化」＝「特色化」に大きく傾斜した結果、「普通教育＝普遍的で共通な教育」が中心に位置づけられていない。「特色づくり」は高等学校教育の複雑化を招くとともに、課題の個別化を進行させ、高等学校教育としての共通の課題を見えにくくしている。 ・学校教育法第 51 条「高等教育の目標①…豊かな人間性、創造性及び健やかな身体を養い、国家及び社会の形成者として必要な資質を養うこと、②社会において果たさなければならない使命の自覚に基づき、個性に応じて将来の進路を決定させ、一般的な教養を高め、専門的な知識、技術及び技能を習得させること、③個性の確立に努めるとともに、社会について、広く深い理解と健全な批判力を養い、社会の発展に寄与する態度を養うこと」の下線部分とも乖離している。
6	この構想にちょっとした付加価値（文面に明文化記載）を付けてみては？ タイトル『ワクワク好奇心・通学術（在学期間中・自宅から学校の区間）』とし、地域自治体（住民を含む）・事業者（交通・飲食等々）が好奇心・遊び心をアイデアにし明文・具現化（内容は努力義務）、今回の構想の新たな付加価値として記載・組み込んでみてはいかがでしょうか。 （高校生が在学期間中が楽しい学生生活になるよう知恵を出し合う。）（富山地鉄廃線問題も絡めて。） 富山県内 15 の自治体〃学校がなくとも高校生本人は存在〃しているはず、故郷に対するネガティブなイメージを少しでも一掃し〃自慢の故郷・終の住処〃として選んでもらえる富山県が見てみたいものです。 余談…最終 20 校、極力発表を早くし地域自治体を落ち着かせる事が先決だと・・・。（地域計画が存在。）
7	「新時代 HS」構想は、すべての高校を対象に「スクラップ＆ビルド」方式で進め、各公立高校に「新たな特色づくり」を位置付けようとしている。これは生徒の選択肢を作るというより、各高校の差別化を図り、「特色づくり」を競わすためである。またそれは、教育行政の押し付けであり、各学校に任せたものにはなっていない。

8	現状として「令和20年度の目指す姿」が描けていない。数と抽象論だけ。数合わせが先行して、肝心の教育内容（学科・コース）の協議が後回しで具体化していない。どの学科・コース（学び）をどの程度どこに配置するのか。肝心の募集率（R5～7＝70.8%→R8＝73.1%）、4学区や東部・西部の配置のバランスが未定。学級規模（少人数学級を拡充しないのか。13年後も40人学級のまなのか）、普通科割合（約66%だったものをどうしていくのか）、教職員配置（県単独措置をどれだけするか）について何もかも未定。高校現場置き去りの現状。今ある学校・学科・コースをどうしていくかという議論が全く深められていない。その議論に各県立学校が主体的に関わる仕組みを敢えて作っていないため、学校現場が関与できない形で学校統廃合が押し付けられようとしている。学校現場を蚊帳の外に置いた進め方では、良い学校を作ることはできない。
9	・県立高校の基本目標『『時代に適応する』『人材』の育成』は不適切。人間観、教育観が根本的に間違っている。教育の目的である「人格の完成」と明らかに矛盾している。 ・「新時代とやまハイスクール」の定義がどこにもない。「再構築」とはどんな要件を満たせば許してもらえるのか。なぜ、魚津工業、砺波工業の学科・コースの見直しは「再構築」、新時代HSと見なされないのか。 ・「再構築」する主体は誰か。現在、学校現場は完全に蚊帳の外で、この構想策定に主体的に関わりをもたせる動きは、県教委が意図的にシャットアウトしてきている。これでは、いい学校ができるわけがない。 ・後ろに出てくる「移行準備校」は何をどう準備していればよいのか。いつからどう関わればよいのか。全く不明。 ・すべての学校を「再構築」して新しい学校にするという方針は撤回してもらいたい。今いる学校はどうなってしまうのだろう。今の学校ではなくなる。統合されたら学校がなくなる。いたずらに不安をあおられ、落ち着いて学校生活が送れない。学校にとって活気よりも大事なのは安心感としっかりとした落ち着きです。深い学び、考察、思考、人の成長の場である学校の本質です。芋の子を洗うようにがじゃがじゃしているのがよい（群れる。切磋琢磨）というのはいつの時代の学校ですか。 ・そもそもすべての学校を再構築といいながら、今現在、どんな学校がどこあるのか、再構築の主体であり、対象である学校の「いまある姿」がどこにも一言も記されていない。バックカスティング手法に偏り、フォアカスティングの観点が見事に欠落している。ここにこの実施方針（素案）の決定的な欺瞞性が表れている。つまり、「こども真ん中」とは空疎なスローガンに過ぎず、現実の子どものことなど眼中にないのである。人材の育成の教育観が根底にあるからこのようなことになってしまうのである。具体的には、今ある高校の姿をまず明確に見える化した形で示すことが必要。その地域分布、学科構成などを示すこと。現行のこの学校での教育活動が各学校、学科、コースでどのような現状にあるのかを検証・評価すること。その上で今後、どんな学び（学科・コース）をどの程度、どのようなバランスで配置するのか。それを子どもの数が毎年変化する中で、生まれた年によって学びの場の保障ができたりできなかったりしないよう、住んでいる地域によって不公平・不均衡が毎年起きないように、細心の注意をもって均衡を図り学習権を保障することが必要。それを実現するには、学級規模の段階的縮小が必須。
10	外国人との交流を増やしてほしい。学習面だけでなく他の分野の学習も展開してほしい。
11	普通系学科で文系でも数Ⅲが選択できるのが良いと思った。理系を選択した人も文系教科の授業をうけたらいいと思った。
12	先の基本方針に対する意見に、教育内容がよく見えてこないとの指摘があるが、文科省の学習指導要領に基づいてカリキュラムを編成しなければならないことの理解が及んでいないのではないかと。富山県の裁量で自由に編成できるのではない。学校設定科目にも限りがあることを認識すべき。また、我々中高年世代は、「私の高校時代はこうだった」と20～60年前の経験と現在の状況を立脚点に高校再編を考えざるを得ない。しかし、現在生まれた世代は22世紀に生きる世代である。社会人として活躍するのは、今から20～30年ぐらい先のこと。つまり、今意見を述べている我々は未来世代に対する立脚点において50年以上のギャップがある。そのことを強く意識して再編していただきたい。つまり、枠を固定するような物言いや具体的に縛るような表現は返って危険であるとも言える。言葉に柔軟性をもたせた表現があってもよい。 ・実施段階における各学校での具体的教育内容については、意欲的な若手教員を配置して、日常の授業を大幅に軽減して専念できる体制が必要である。形だけの新高校とならないように、人員と予算と十分な準備期間を設けて取り組んでいただきたい。特に既存の専門教科内容から大きくかけ離れた教科科目を設定する場合は、新規採用段階から養成するようにしないと新しい学科の開設は難しい。現職教員は得てして自分の既存の教科内容の枠内で捉えようとするので、生徒からすると新鮮さや興味関心が感じられない恐れがあると思う。
13	学科や偏差値など学校についての中身の充実性が大切になってくるように思います。
14	教育内容について ①「新時代HS」は、再編される各学校類型の教育内容を行政が定めている。教育内容を定めるのは行政ではなく、各校である。教育課程の編成権・運用権は学校にあるという原則から著しく逸脱している。 ②富山県における高校は、「受験学力による輪切」と言われて久しい。それが高校間格差や少学区制撤廃につながった。「新時代HS」は、スタンダードとして学校の中に、習熟度別授業を導入することを明記しているが、これは生徒を能力別に序列化することを日常化しようとするものであり、「苦手な生徒へのフォローアップ」にはならない。学校間に加え生徒間にも能力主義を「見える化」し、「二重の能力主義」をもたらす。かつて富山県が実施した「七三体制」は、生徒や学校間に格差や差別意識を生み出し、全国的に問題視された。

	今回の高校「再編」は、さらにそれを新自由主義教育として再構築しようとするものであり、「学校教育法第 50 条・51 条」高校教育の目的・目標にも反する。自己選択・自己決定・自己責任に基づく新たな能力主義は、「豊かな人間性」を生み出すことはない。そこにあるのは、「人間性の破壊」である。 ③「STEAM」について 「STEAM」における「探究的な学び」は、現在その多くが企業が開発した「STEAM 教育」のコンテンツで行われている。そのためテーマ設定が産業界の関心や利益のある課題に偏ってしまう恐れがある。教師の専門性や自律性を侵すものになりかねない。 ④「未来創造」「グローバル」について 意味が不明。「未来創造」や「グローバル」は、どの高校でも位置付けられる内容であり、それを、指定した高校だけに限定するのはおかしい。 ⑤「地域共創」について 「新時代 HS」の構想では、県教委自らが堅持してきた「各自治体に 1 校の高等学校」の原則を反故にする計画が示されている。高校は、地域活性化にとって重要な役割を果たしてきた。これまで、すべての高校は、各自治体とつながり「地域共創」を目指してきたことをどう評価するのか。そうした地域住民に対しどう説明できるのか。さらに対象を南砺平高校に限定しているのは、おかしい。南砺平だけが担うべき課題ではない。 ⑥いずれの項目にも、「人材」という文言が見られるが、生徒は「人材」ではなく、子どもの権利条約に言う「権利主体」である。子どもに対する認識の欠如が見られる。
15	・なぜ普通系学科だけ、県教委がこんなに色分けをする必要があるのか全く分からない。こんな色分けは不要。ここまで色分けされた 6 種類の学校に県内どこからでもすべての子どもが通学できるのですか。絶対にできない。自分の居住地の近くに自分の行きたい教育内容の普通科がなかったら、遠い学校に行かなければならなくなる。色分けを設置者がやりすぎると子どもの選択肢を狭めてしまう。その矛盾に陥っている。普通科の共通性の重要性が軽視されている。どの学校の普通科に行っても、共通の良い普通教育が受けられるから普通科なのです。 ・特色は、それぞれの学校が築き上げるべきものです。他との違いを出そうなどとおかしな特色化の強迫観念にかられる状態に学校を追い込んでも意味のある特色は出ません。各学校が目目の生徒と格闘し、よりよい教育をめざす実践を重ねることで結果としてその学校の校風や伝統が作り出されていくのです。 ・その意味では、教育計画策定の各学校の裁量権、それを可能にする学校裁量で使える教育予算の保障、そして最大の教育条件である教職員の十分な配置と力量を高める自主的な研修の保障などが学校づくりの 3 大条件です。県当局は県立高校にどれだけ教育予算をかける気があるのか。それが全く示されていない。教育予算の話がどこにも出てこないのもこの方針の成熟度の低さを表しています。 ・商業科と家庭科を普通科コースに切り下げていいことは何ともありません。教職員配置が減られ、職業系専門学科でできていた専門教育はできなくなります。未来創造Ⅳ、Ⅴは商業科、家庭科の削減・廃止にすぎません。やるべきではありません。少人数学級にして学科として残すべきです。 ・県教委は教育委員や県議会などに見られるコース制への幻想に対して、それが幻想であることを正しく伝えるべき。コースにしても国は教員配置を増やしません。コースの特色を出すには県が単独措置で教員を増やさないと特色ある講座は開設できません。それを十分にしていないから現在、現場の教員が過重な負担を背負い込んで、現場の教員の長時間過重労働によってコースが成り立っているのです。
16	(1) 普通系学科について、「スタンダード」を他の「分類」に共通する位置づけにした点は 3 月の「基本方針」から一歩進んだが、逆に言うと「普通教育としての共通部分」と「特色部分」を合わせるということは、現在の普通科コースと同じ考え方になる。現在の一番の問題点は、普通科コースには教職員配置をはじめとする「特色化」への資源投資がないということ。専門学科をなくして普通系と抱き合わせて「総合学科」にすれば教職員配置数は減り、「普通科コース」にすればさらに減る。学習指導要領と進路保障に縛られながら「多様化」「特色化」を進めることは不可能であり、現在なんとか成り立っているとすれば、それは学校側・教職員の献身と犠牲によるもので、それが教職員と子どもを追い詰め、教職員のなり手不足にもつながっている。 (2) 職業系専門学科についても、p5 (参考) にある方向性の実現を目指すということなのか？ そうであれば、人的・条件的な「新たな投資」が必要になる。社会全体としても「公正な人間らしいはたらき方」への志向が強まる中で、これまでのような「次から次に新しいことを求めるが、そのための投資はしない」という前提の「構想」は誰も幸せにしない。
17	中途半端に普通教科を勉強するより、将来へ向けて専門的に勉強できることは良いと思う。
18	私は現在、「これからの高校教育を考える会」で学ばせていただいております。提言を出させていただいたメンバーの一人です。それに関連して、この会の提言では伝えきれていない職業科（工業）の実情と、今後へ向けてのお願いを以下の通り伝えさせていただきます。 8/30 に県民会館で実施された意見交換会の際、中には「国立高専があるが、ものづくり県であることから県も 5 年制の高専のような学校の検討をしないのか」という意見が出ていました。個人的には上記意見に直接関連しないものの、「職人・エンジニア」を育成するだけではなく「基礎研究・研究開発」等に特化した職業科があれば、と以前から感じており、

	また別に出ている自民党 PT 提言書（会のメンバー内で拝見させていただきました）の「理数科・職業科」のような提案からも、「研究開発に特化した職業科」のようなものがあると「ものづくり県」としての特徴を大きく出せるのではないかと改めて強く感じている次第です。 その理由の 1 つ目が、職業科の定員割れです。本校の中であっても学科間の人気の差から、特定の学科が定員割れを引き起こしており、それに起因する学科間の格差がとても大きいことがさまざまな問題を生み出しています。そこで個人的に思うのは、再編に際して、募集定員や構成も重要ですが、「各職業科が理解される環境づくり」の方法の検討を重視できないでしょうか。ということです。関連して、中学校の先生方や普通教科の先生方の職業科（特に工業においては産業界とのつながり）に対する見識が少ないと痛感しています。理解があると、全く異なる観点で話を進めてもらえたり、前向きな改善を図れたりする事例も多くあります。これら社会（企業）と学校をつなぐ要素や中学校への説明を含めての環境づくりもできることが、「研究開発に特化した職業科」があってもよいと考える理由の 1 つ目です。 2 つ目の理由として、本校では以下のような創業支援の面やユニコーン企業的なものなど、イノベーションに関する体験機会も現在増やしており、このような考え方が「研究開発に特化した職業科」に一致すると考えています。現在、富山県創業支援センター（SCOP）と共同で各種ワークショップを企画しており、既にイベントの 1 つとしてものづくりワークショップを 3 回開催しました。（SCOP と本校の関わりは開設の時からのもので）生徒が子どもたちや一般の来場者のサポートをしてオリジナルキーホルダーを製作するものですが、これら特別活動・課外活動以外にも、実習や課題研究（他校での「探究」）などと連携して進められるようにしており、“次年度より入居企業さんと、生産設備の新規開発に関わる協働研究を実施する方向で計画を具体的に進めています。”これらのイベントや、コラボでの研究等は単なる専門教科の学習にとどまらず、普通教科にも関連する部分が多くあることから、本校側としても非常に有意義であると考えています。あわせて関わる先生も時間の経過とともに徐々に増えてきており、「担当の〇〇先生 1 人に依存しない」という、学校として継続できる環境がゆっくりですが整いつつあります。これらは職業（工業）科の枠にとらわれない、新しい学習の形であると考えています。これが「研究開発に特化した職業科」があってもよいと考える 2 つ目の理由です。長文になり申し訳ありません。他にもありますが、会からの提言書でお伝えできると考えています。また話がそれた部分も多々あるかと存じますが、アイディアや参考の一端になりましたら幸いです。
19	工業高校で工業科の勉強に励んでいる私からの意見は、工業科目以外の科目に力を入れる案には反対です。現在の工業高校の進路比率は、就職 80%、進学 20%であり、求人倍率も年々増加しています。また、工業高校では就職率 100%で就職に非常に力を入れており、授業では専門科目のほか、実践的な作業で技術を学ぶ実習、実際に企業が就業体験するインターンシップがあります。工業高校では近年、専門科目に対する学生の意識が低くなっているせいか、大手企業に就職した工業の生徒の質が悪いと評価され、求人人数が減っている企業もあると聞き、今よりもさらに工業科目、専門科目に力を入れるべきだと思いました。工業高校での需要と供給について生徒代表として考えた意見です。
20	「新時代とやまハイスchool構想」について、基本的にはニュートラルな姿勢をしていますが、学びたい、学んでよかったと思える県立高校づくりを目指すために考えておりますことを専門学科「商業」の観点から述べさせていただきます。 1 素案 3 ページ 未来創造 iv について （1）商業科から大学等上級学校へ進学している生徒は一定数おりますが、これらの生徒はあくまでも商業科の体系的な教育課程を踏まえた上で、教科商業の専門性を生かした大学等上級学校につながっていると考えます。 そもそも、大学等上級学校への進学者が多いという数字だけで「それならば普通科（コース）」にあてはめるという捉え方はそぐわないと考えます。大学等上級学校への進学、イコール普通科（コース）ではなく、あくまでも専門学科商業に特化した教育課程（単位数）を踏まえた上で大学等上級学校への接続といった捉え方をすべきと考えます。富山大学経済学部が学校推薦型選抜を例にとれば、経済学部経済経営学科 B 推薦の対象課程は職業課程となっており入試制度も整っています。生徒は専門学科商業の学習を踏まえさらに専門的に研究し、将来は本県教員や地元の経済発展に寄与したい進路希望を持っています。 （2）現状として高校卒業後就職する生徒もいます。生徒に富山県の商業のみならず、広く会社組織を支え、あるいは将来税理士などのプロフェッショナルとして活躍させる基礎的な素養を身につけさせる必要があると考えます。 （3）就職、進学を問わず、商業科目は各科目を統合して身につけさせる必要があります。一部の科目を独立して履修させるのではなく、関連した科目として履修させないと真の実力にはならないと考えます。普通科の一部として一部の科目のみ履修させても教育効果は期待できず、あくまでも専門学科商業としての位置づけが前提となると考えます。 したがって、素案 3 ページ（未来創造）iv や、素案 4 ページ（2）③の位置づけでなく、例えば素案 4 ページ（2）②のように、普通系学科コースと切り離れた職業系専門学科の位置づけであって欲しいと考えております。
21	富山商業高校、高岡商業高校のごとく、本県のバランスを鑑み、東部、西部には、商業科拠点校としての単独校設置の必要性について、述べさせていただきます。 富山商業、高岡商業を卒業して就職、進学した生徒についての受け止めを企業、大学の方から個人的に伺ったことがありましたので紹介します。 ○企業側（食品販売、一般事務 管理者） ・明るく物怖じせずに挨拶をしたり話をする。 ・業務の課題に関するミーティングがあった際には、考えられる課題、その改善策やアイデアを積極的に話をする。

	・粘り強く最後までやり遂げるバイタリティがある。 ○大学側 ・入学してしばらくは静かな感じだが、ゼミなどの小集団ではリーダーシップを発揮しゼミ生をまとめて全体を引っ張る存在になる学生がいる。 ・入学時、大学で何を学びたいのかという目的を明確にもっている学生がいる。 ・高校で多様な学習経験をした学生が入学することで、大学の活性化につなげている。 ここで、こうした資質を養った要因として考えられることについて、大規模校ならではの事例を紹介します。 本県商業科単独校では、学んだ内容を実学として実践体験する模擬株式会社組織の販売実習があります。全国の商業科拠点校でも行われており、各校では全校あげての特色ある教育活動のひとつとなっています。 （活動内容と科目と関連について） ・全校生徒を、「総務部」「営業部」「広報企画宣伝部」「経理部」「店長」「副店長」として模擬株式会社組織に分け、法規的なこと、役割分担と責任所在を明確にすることなどは、科目「ビジネス・マネジメント」「ビジネス法規」と関連しています。 ・商品の仕入れ、販売広告、接客などは、科目「マーケティング」、「ビジネスコミュニケーション」などと関連しています。 ・販売価格の設定、目標利益率の設定などは、科目「簿記」「会計」「原価計算」「財務諸表」と関連しています。 ・販売後のABC分析、売れ筋商品の分析などは、科目「情報処理」と関連しています。 といった具合に、個々の販売プロセスは商業科目の学習内容とつなげています。 その際に留意していることとして、生徒は細かな点において、絶えず課題意識を持たせ、その課題解決の方策を互いに相談して考えさせていることが挙げられます。赤字になると返品もあるため、生徒は真剣さながらです。 企業各社の担当者と綿密な打合せを持たせ、発言する経験を持たせるほか、企業担当者が生徒にアドバイスする時間を多く設定することが挙げられます。 終了後は模擬株式会社の株主総会などで振り返りと課題、今後の方策を考えさせることになります。 その他、外部講師を積極的に招聘し、社会とのつながりをもたせながら展開するなど、こうした「総合的学習体験活動」は部活動の経験と相まって卒業後に発揮される資質の一因になっているのではないかと思います。 こうした商業科ならではの特徴的な活動は、学習指導要領「商業科の目標」に叶ったものであります。 そして、これらの学習体験活動は一定規模の商業科単独校においてダイナミックに展開されると考えられます。 パブリックコメントについては以上です。どうもありがとうございました。
22	（素案）における商業科の取扱いについて 令和7年8月に示された「新時代とやまハイスクール構想」実施基本方針（素案）において、単独商業高校について示されておらず、商業科全体が普通系学科との併設やコース化などに矮小化されたような内容となっていることに強い危惧を抱きます。普通系学科との併設では、クラス数や教員配置の制約により、商業科の特色を十分に示すことが困難であり、普通系学科のコースや選択科目の開設では、商業教育本来の専門性が失われてしまいます。 商業教育はこれまで簿記や会計、情報処理をはじめとした商業の専門科目や、模擬株式会社運営や販売実習などのアントレプレナーシップ教育を通じて多くの人材を育成し、流通・金融・観光・サービスなど県内の様々な分野において活躍する有意な人材を輩出してきました。その役割と実績は決して軽視すべきではありません。 全国的には「観光ビジネス科」など、観光や地域経済と直結する実践的な商業教育への学科改編が進められている学校も多くあります。本県においても、北陸新幹線の開業による観光需要・インバウンド需要の拡大を考えれば、商業教育を強化・発展させる必要があります。 工業科がこれまで「ものづくり」で県の産業を支えてきたのに対し、商業科は「ひとづくり」を担い、今後の地域社会を支える人材育成にも不可欠です。これは新田知事が2期目の公約で掲げる「未来に向けた人づくり」の理念そのものであり、商業教育こそが県の方向性に合致する教育分野であると言えます。さらに、新田知事は本年5月の定例会見において「起業教育は社会で役立つ知識であり、有意義な教育である」と述べられています。また「新時代とやまハイスクール構想」基本方針でも、商業科の方向性として「起業家精神を学ぶ取組みの充実」が掲げられています。まさに商業科こそが起業家精神を学ぶ中心的な役割を担う学科であり、県の目指す教育政策と完全に重なります。 しかし令和20年度における県立高校の配置の姿には、工業科の方向性は示されている一方、商業科については明示されておらず、商業科の価値や可能性についての理解が十分ではないと感じています。 現在、県内の全日制高校には工業高校、商業高校、農業高校があります。商業には、普通科併設の商業科と総合学科で学ぶことができる商業科目がありますが、商業教育全体の発展に果たすべき役割が大きい単独商業高校は必要であり、その強化と将来にわたる発展的展開を強く望みます。

	(素案) 該当ページ p4(2) 職業系専門学科、p6(参考) 各職業系専門学科の今後の方向性、p8 5. 令和 20 年度における県立高校の配置の姿・職業系専門学科からなる～、p11 中規模校 5 「未来探求」HS、6 「実践」HS
23	商業科単独校の必要性について理解してほしい。→現在、「富山商業高校」と「高岡商業高校」の2校が商業科単独校としてあります。この存在は大きく、全国商業高等学校協会(全商)との連携や各種競技会(ワープロ・情報処理・簿記など)の運営、検定の実施、各種団体の事業など多岐に渡ります。また、「富山商業高校」は”TOMISHOP”、「高岡商業高校」は”りゅうりゅうフェア”などを実施し、商業の学びを地域と連携しながら還元しています。これらの運営・実施には多くの商業科教員と多くの商業を学んだ生徒が必要になります。8 ページ3 行目に『職業系専門学科からなる学校は…工業科などで構成し～』と記載されており、商業科単独校の存在が薄れているように感じました。商業科単独校は普通科やその他の学科ではできないような特色ある取り組みが可能である、ということを理解して議論を進めていってほしいと思います。
24	(素案)における商業科の取扱いについて はじめに、県立高校改革推進課の皆様が、誰にも感謝されることのない困難な業務に、日々取り組んでおられることに敬意を表します。 「新時代とやまハイスクール構想」実施方針(素案)についての意見をお伝えします。商業科の取扱いにほぼ絞ってお伝えします。長文での投稿になりますが、ご容赦ください。 (素案)では、商業科の扱いが極めて軽くなっていることに危惧を覚えました。商業科単独校を残す未来が見えず、普通科の中にコースとして残すなどでは、商業教育の教育効果が不十分となることは明らかです。商業教育は、単なる簿記や情報処理の技術習得に留まるものではありません。それは、社会を動かす「経済」の仕組みを理解し、その中で自律的に行動できる人材を育成する教育です。商業科では、簿記、マーケティング、商品開発、情報技術、ビジネス法規など、実社会で直接役立つ専門知識を体系的に学びます。これらの知識は、単に就職のためだけでなく、生涯にわたって自身のキャリアを築き、社会に貢献するための基盤となります。 とりわけ地方においては、商業教育が果たす役割は極めて重要です。商業高校は、地域経済を支える人材供給源でもあります。地域の企業にとって、即戦力となる商業高校の卒業生は貴重な存在です。本校の就職者は毎年 60 名前後ですが、商業科単独校がなくなることは、こうした地方企業の人材確保を困難にし、ひいては地域経済全体の停滞を招くことになりかねません。 再編によって普通科コースに吸収された商業教育では、その専門性を維持することは難しいでしょう。限られた時間とリソースの中で、普通科のカリキュラムと並行して商業科の専門科目を深く学ぶことは不可能です。結果として、商業教育は形骸化し、本来の目的である「社会に通用するビジネス人材の育成」が果たせなくなります。 国の普通科改革の流れを受けて、バラエティに富んだ普通科を用意しようとされていることは理解します。しかし、普通科コースでは、(素案)で謳われている「アントレプレナーシップの育成」は、なかなか難しいと考えます。 (素案)では、職業科単独校のイメージとして、工業科単独校の存在が強く印象に残りました。日本海側屈指の工業県である富山県としては、工業科は絶対に必要だと思います(ただし、定員割れが酷いですが)。ただ、工業科単独校はどうしても男子生徒が多くなります。その反対に、女子生徒の受け皿としての職業科単独校も必要だと思います。その役割を商業科単独校が担っているのです。性別による志願制限をしている訳ではないのですが、実態として、そのように棲み分けがなされています。 商業科は女子が多く、地元に残る者も多いので、少子化対策にも一役買います。普通科は進学が前提ですが、県内には選択肢がそれほど多くないため、県外進学が多いのは周知のとおりです。商業科単独校で募集をして、閑古鳥が泣き続けるようなら、店仕舞いするのやむを得ませんが、そうでない限りは、女子中学生が職業科を考える際の選択肢として、商業科単独校を残すべきだと思います。 商業科の学習指導要領では「地域社会の一員として社会の発展に寄与する態度を養う」と明記されていて、地域社会への貢献を謳っています。実は、工業科、農業科、水産科、家庭科などの職業科は全てそうです(普通科でも少しは触れている)。職業科を大切にすることは、地方創生にも繋がると思います。
25	商業科としての設置ではなく、コースとしての設置では科目数が足りず、現行の商業教育よりも質が落ちるのではないかと。今までの職業科推薦に当たる単位数が確保できなければ、現行の普通科併設商業科よりも進路選択の幅がなくなる。
26	いずみ高校看護科・専攻科を無くして欲しい。県立大学看護学部もあり、そちらにお金をかけるべきだと思う。施設の的にも昭和から変わっていない。時代が変わり看護師も大卒が最低ラインであるため、昔ながらの職業科の在り方を考え直す時期なのではないかと思う。
27	・4 ページの職業系専門学科の説明がたったの4 行とはどういうことですか。普通系学科の色分けへの入れ込みようとのギャップがひどすぎる。 ・5 ページの(参考)「各職業系専門学科の今後の方向性」これは何ですか。 ・今必要なのは普通科の細かい色分けではなくて、職業系専門学科を今後どうしていくのかという検討と計画です。これが全く深められていない。この実施方針の成熟度の低さが最も表れているところです。この方針を1 期、2 期の再編後、きちんと作ってこなかったから、生徒・保護者の要望に応じて探究科を作ったりして高めていった普通科割合を、生徒

	減の際に職業系専門学科をどうするかの方針がないから、とりあえず普通科割合をなし崩し的に引き下げるという結果を招いてきたのです。その結果、職業科で定員割れをしたと騒いでいるというのは県教委の募集定員計画策定の失敗です。職業系専門学科の募集定員を段階的に少人数学級化をもっと進め、普通科の定員減を抑制するという手だてをこれまでに取るべきでした。
28	各職業専門科ごとに方向性を決めるのもいいと思った。
29	職業系専門科目の学びを多くの学校でできるようにしてほしい。→普通科に通う生徒の中にも工業や商業、家庭などの職業系専門科目に興味を持っている人がいます。また、県内の私立高校には職業系専門科目を学べるところが少ないため差別化も図れると思います。多くの高校で職業系のクラスを作ったり、選択科目などで学べる環境を整えたりしてほしいです。その上で、どの学科・コース（学び）をどの程度どこに配置するのか、なぜそのように配置したのかの理由も含めて早く明記してほしいと思います。以上、長文となりましたが、一意見として今後、より良い形で再構築されることを強く願っています。最後に、公表や実施時期が遅くなったり、急に公表したりすれば多くの県民は不安や不満を感じると思いますが、何事も迅速に進めるようお願いします。
30	良い高校とはどんな高校でしょうか？校風が素晴らしい、生徒会、部活動、ボランティア活動を含めた課外活動が素晴らしい、校長先生を初めとした教諭陣、指導者が素晴らしいなどありますが、それに加え偏差値の高い有名大学に何名送り出したかというのが教育県富山には根強い価値観としてあるように感じています。 しかし、有名大学ではなく、富山県の、企業および高等教育機関に何名送り出したかという視点を、生徒を送り出す側の中学の先生からお聞きすることは少ないです。 しかし一方でその視点は、富山の企業経営者を含めた経済団体ではよくよく耳にいたします。理由は言わずと知れた若者の県外流出による採用困難による人手不足からです。 しかしこのような話になると、多くの方々から、子供の未来は子ども自身に決めさせるべき！企業が人手不足だからと言って富山に残れなど、子供がかわいそう！と声を大にしておっしゃいます。全ての子供たちが富山に残ることなどももちろんあり得ません。都会へ、そして世界へ羽ばたく子供たちはぜひみんなで応援してあげたいものです。 では、都会や世界へ羽ばたく子供たちが素晴らしいとしたら、一方で富山の学校に進学したり、富山の企業に就職する子供たちはどのような位置づけになるのでしょうか？勉強ができなかった、家庭に金銭的な余裕がなかった不幸な子供たちなののでしょうか？もちろんそんなことは全くありません！彼らこそが、ふるさと富山で経済的豊かさだけではないウェルビーイングを体現し、富山を担っていく子供たちなのです。 ところで話は変わりますが、中学3年生時点での、高校卒業後の進路という視点で考えた時の、高校選びの基準はどんなことがあるのでしょうか？ 1、偏差値の高い高校へ行けば、偏差値の高い大学へ進学でき、良い企業に就職でき良い暮らしができ幸せになれる。 2、希望する部活動が盛んな高校へ行けば、大学、社会人になっても続けていくことができる。 3、将来自分がつきたい職業系専門学科のある高校へ行けば、高校卒業後その分野の企業に就職しやすくなる。 4、今はまだ卒業後に進学するか、就職するかは決めてはいないが地元に残って、家族や友達と共に住み慣れた土地で生活していきたいと思っている。（中には家庭の金銭的な事情で県外へ行くことはできないという子供もいる） 5、あまり考えていない。考えがまとまっていない。 5、はさておき、1～4は一定数のニーズはあり、その受け皿となるべき県立高校は必要となってきます。 「新時代とやまハイスクール構想」実施方針（素案）では、1～3は明確に読み取ることができます。しかし、4においては不明確と言わざるをえません。（3）総合学科の部分で少し触れているようにも見えますが、『キャリア教育等を通して、自身の進路希望を明確にし、進路にあった学びを提供する』という表現にとどまっているように感じます。 ここはもう一歩踏み込んで、4の子供たちの受け皿として、富山の高等教育校や企業へ進むことに強く、そしてそれを推進する学科という事を表現してもよいのではないのでしょうか？県としてもそれを、積極的に推進しているという事を、もっとメッセージとして表現してもいいと思うのです。もちろんそれは地元企業のためだけではなくありません。もっともっと大きな意味で富山を未来へ繋いでいくためなのです。他県に先駆けてこのような施策を打ち出してはいかがでしょうか。その授業内容は、キャリア教育等により県内企業との連携で、より一層の専門教育も可能になってくるなど無限に広がると思われます。そして、この学科を履修することで将来的に、その子供たちは富山の企業に就職し家庭を持ち、両親と共に、自然、食、人の良さにあふれた富山で暮らし、結果的に未来の富山を創っていく原動力になっていくのです。総合学科にはこうあってほしいと思うとともに、ぜひともこのようなメッセージで発信してほしいです。そして、未来を拓く人材には、未来を担う（富山を担う）人材も含まれるという事であってほしいです。
31	規模が小さい学校はまとめるべき。
32	県立学校の規模を大きくする最大のメリットは、1校あたりの教員数が増えることに尽きる。中学校と違い、高校は選択科目が多い。法律で1学級40人を基に教員定数が配置されるので、中小規模校では、理科・社会・芸術の教科教員の「全員を正規教員で」配置することができない。生徒にとって最も大切な学びの選択肢が狭められる。また、教員にとっても、人数が増えれば校務分掌の業務負担が減る。クラス担任も複数配置できるし、部活動顧問も複数人配置できる。理科や社会の選択科目教員も中規模校以下では配置できても1人

	ずつだが、大規模校では複数人の配置が可能になる。それによって教員は互いに相談や研鑽ができ、心理的にもかもしれないが休暇が取得しやすくなる。「子どもファースト」の最たるものが学びであるならば、小規模校が生徒や教員にとってプラスになることは残念だが多くはない。小規模校の解消に否定的な見解があるが、この学びの観点に及んでいない点で説得力を欠く。よって、一部の交通の面で不便な地域にのみに限って開設するのでよい。法律の改正が現実的でない以上、規模を拡大することでしか生徒の学びと教員の心身を守る手段はないと考える。そういう経緯を十分に踏まえた実施方針は、現状の問題に対応したきわめて現実的な解決策と言える。
33	「新時代とやまハイスクール構想」実施方針(素案)の、〈序章〉令和 20 年度までに実現を目指す県立高校の姿（基本的な考え方）、1. 基本目標、2. 教育内容、3. 学校規模別の設置方針に問題はなく賛成です。問題は、県立高校の再編を考える千載一遇のこの機に、中・小規模高校を残す方針をまだ掲げていることにあります。無理に中・小規模を残そうとしますと、〈序章〉4. 様々なタイプの学校・学科等、5. 令和 20 年度における配置の姿（エリア・学校規模・学校数）が、大変苦しく、本質的な統廃合再編問題解決にはいたりません。例えば、平高校は廃校となっても、砺波地区に設置する大規模校に、伝統芸能部を引き継ぐことは十分可能です。旧平高校の一部施設を利用し、部活に行き、地域の人々と濃密な交流も可能です。まずは 1 校とはいえ、大規模校に将来の高校教育の活路を見出したのなら、統廃合再編問題に終わりを告げるという解決ができ、高校現状の諸問題も大幅に解決できる、理想の大規模校のみを県内 4 地区すべてに 6（～8）校設置するという方針に、勇気をもって進めてもらいたいと思います。提案（6～8 校設置とみていますが、現状数から案として 6 校で示します）大規模高校だけを作ります（核となる高校に増築、移築したり、近接校をまとまって一つとみなしたりと柔軟に対応し、大規模高校を作ります）。 A 県内 4 地区の交通の利便地に 6 校の大規模高校をバランスよく作ります。 B 6 校の大規模高校はすべて、制度疲労した全日制ではなく、無限の可能性を持つ定時制通信制単位制高校とし、3 部制とします。 C 6 校の大規模高校は、すべて同様とし、定時制単位制ベースの、富山県立大学規模のオールマイティー高校にします。すると、本県の 6 校の大規模高校は、埼玉県立伊奈学園総合高等学校より優れた高校となるのではないかと思います。 D 6 校の大規模高校は、現在レベルで計画しますと、富山県の中学 3 年生徒数は現在約 6,000 人なので、1 学年 1,000 人規模の高校を新たに 6 校作ることになります。つまり 1 学年 25 学級規模の高校 6 校を、県内 4 地区にバランスよく配置します。 E 富山県の中学 3 年生徒数は現在 6,000 人。13 年後の 2038 年は 5,000 人に減るとして、大規模校を 6 校設置すれば、年々学級減しても 13 年後で各校 20 学級規模に減る程度なので学校減の心配はありません。 F 6 校の大規模高校設立資金は、県内の全ての高校を売却することでねん出します。また、高校は県の財産なので担保として金融機関から融資してもらうことも考えられます。また、先進的取り組みとして国の補助も受けられるように働きかけましょう。 G 1 学年 25 学級規模ですが、定時制単位制としますので 1 講座 20 人マックスの少人数教育制を基本とします。いわゆるクラスの概念は全日とは異なり、定時制単位制のクラス概念となります。雄峰高校を参考とするとわかりますが、さらなる柔軟性は必要となります。 H 教育課程、学校運営は具体的には、定時制単位制高校の最先端の雄峰高校や志貴野高校、東京新宿山吹高校等を参考とすればよいのですが、規模の面から富山県立大学のような学部組織的運用をする必要もあると考えられます。創造的な工夫の余地があります。以上が提案の骨子です。 補足意見 ●大規模校なら、教員数が多いので、中小規模校で目指すことはすべてできます。「国際バカロレア」の認定も、外国籍の生徒の支援体制を整えることも、どの大規模高校でもできます。県東部に設置するとか西部に配置するとかの苦しい検討をするまでもありません。 ●設置例 1 校は、新新川高校（仮称。魚津高校を核とし、その辺りを拡充します）とし、新川地区の高校、学科も含めて全て統合します。設置学科はいろいろ考えられますが、例えば最少として、普通科、総合学科の 2 つでカバーできます。入学は新川地区の中学生が原則として受験して入学します。入試はあります。学習意欲がなければ不合格もありえます。以下も同様。2 校目は、富山地区東側の統合。3 校目は富山地区西側の統合。4 校目は高岡地区の北部方面を統合。5 校目は高岡地区の南部方面を統合。6 校目は砺波地区を全域統合。既存の高校を核とし、増築、移築します。具体的な建物イメージは 1 つの高校が、富山県立大学規模、雄峰高校の大型版（4 倍規模）が望ましいです。 ●もはや、高校間格差はありません。各校で難関大学進学から就職、資格取得まで幅広く対応できます。多様な生徒の受け入れも、日本語の不自由な生徒の受け入れも対応可能です。遠方から通う生徒には、交通費や、スクールバスなど交通手段も含め、手厚い補助が必要です。 ●ほぼ合格できて 6 校とも平等です。教員数の多い定時制単位制通信制の普通科・総合学科高校となるので、高レベルの進学講座科目の選択肢も豊富に用意できるうえ、教員も少人数教育で、能力が発揮しやすく、余裕で東大も目指せます。世話焼きの全日制ではないので、本当に自主性を重んじますので生徒の伸びしろも大きく、大物が育ちます。留学も休学も退学も自由です。自己責任の自由があります。どんな夢も叶う可能性があります。富山県の高校は 6 校と私立だけとなるので、甲子園にはかなりの確率で行けます。

	●県内 36 校から 6 校になるならば、校長数、教頭数が減るので、管理職手当が大幅に削減できます。また生徒指導部長とか 5 主任分の主任手当も大量に削減できますので人件費は大幅に節約できます。（しかし、1 校に教頭、教務主任は 5 人は必要でしょう。）その分、教諭の給与も割り増しできます。6 校なので大量に配置できます。（県立高校の教員は今ざっと 2,000 人ぐらい。6 校だから、各校に 330 人ずつ配置できる計算です）県教委として大幅な節約になります。もちろん全富山県民の利益です。 ●廃止になる高校の施設は、あちこち少し残しておいて部活などに利用します。部活は校舎外での活動も含め、地域社会人が対応します。旧校舎やグラウンドはなるべく高く売り、新高校の設立資金とします。30 校売れば、6 校増築しやすくなります。 ●一つずつ高校を廃校にすると抵抗が大きいのので、県内高校を一斉に廃校にするなら反対は少ないでしょう。 ●小さい学校にいきいたい生徒でも、定通システムなので校内で少数で過ごせます。小規模校は、どうしても科目選択肢も教員も友達も部活も、いろんな可能性も全て、少ないです。問題は多いけれど、教員の能力が発揮できず、仕事になりません。富山県の高校を全て大規模に編成し直すのが一番とを考えます。日本一の教育県になります。私立はニーズがあれば残ると思います。
34	小規模校を減らし大規模校を増やせば、教員の減少にも対応できると思う。
35	「学校規模の設置方針」「様々なタイプの学校・学科等」では、学科・コースの見直しや新しいタイプの学科・コースの提言案は、子どもと保護者、教職員を置き去りにした議論になっている。総じて、対症療法的・福祉的支援になっており、予算措置も不明である。
36	多くの人が大規模校には行くことになり、様々な種類の人と同じ学校で生活することになるので、障害や多国籍など、多様な事情がある生徒も全員が安心して楽しい学校生活を送ることができるようにしてほしい。また、大規模校には多くの人が集まることによって、部活動の県内での大会やコンテストでは、他の高校に比べて有利になってしまうと思います。
37	大規模校ではスタンダード、i、ii を学べると書かれていたが、iii、iv、v が学べる学校はあるのか気になった。また、中規模校でははじめのうちは職業系専門学科をひとつに決めずに色々な挑戦が出来たら良いと感じた。
38	大規模校での教育内容は、スタンダード、未来創造【i】スポーツ、未来創造【ii】芸術となっていますが、この教育内容は、中規模校でも十分対応できる内容であり、「大規模校を新たに設置する必要はない」と思います。大規模校を新設するためには多大な費用が必要であり、今後人口が減少していく富山県に、こうした大規模校を新設することが必要だとは思えません。大規模校を設置する前に、中規模校・小規模校の老朽化の対応や新たな教育内容に必要な建物改築・設備の改修を優先する必要があると思います。建て替え等の必要がある学校もあると思います。今後 30 年～50 年を見据えた学校にしっかりと整備していくことがまず必要と思います。 また、「新時代とやまハイスクール」を支える教職員の人材確保にも取り組む必要があると思います。様々な学科の新設や職業系専門学科の新たな取り組みを達成していくためには、いろいろな能力を持った教職員の人材確保に取り組んでいく必要があります。こうした教職員を確保していくため、民間企業と遜色のない魅力ある教職員の処遇に要する費用を確保する必要があると思います。 県内に 1 校の大規模校の新設に大きな費用をかけるより、各地域の中規模校・小規模校の改築・改修を行って、県内各地域の均衡ある発展を図るべきであり、また、今後一層懸念される人手不足の環境の中で、「新時代とやまハイスクール」を支える教職員の人材確保にも優先して取り組むべきだと思います。以上。
39	・ 480 人の大規模校は絶対にいない。新築するお金があるなら、来年度 22% も削った教育予算事業費を補正予算で増額せよ。何をやっているのですか。 ・ これまでの検討の経緯を完全に無視した、教育行政のハイジャック状態である。誰が 480 人の学校を作ってくれといったのですか。480 人がよいという具体的な賛成意見は聞いたことがない。 ・ 480 人 1 校というのは基本方針を無視した変更であり不当です。 ・ 大規模という特色のある学校を 1 校だけ作ると通える子と通えない子の不公平が生じるので反対。県の中央で富山市で県立高校の敷地に新築ということは呉羽高校の場所ですか。そこに全県から通学できるのですか。砺波地区や高岡地区からどれだけ通学可能なのですか。そんなにいい学校に通える生徒と通えない生徒ができることは問題です。 ・ 全く魅力がない。この内容では間違いなく定員割れする。 ・ 普通科の総合選択制高校はあくまで普通科です。普通科単独校は教職員配置数が少ないのです。今さら伊奈学園総合高校モデルの学校を中途半端に追求する理由が全く分らない。相当、県単独措置による教員を標準法以上に配置しなかったら、特色ある講座は用意できません。教職員に過重負担を強いるだけです。 ・ 今ある 320 人や 280 人の学校ですら、大きすぎて困っているのです。しかも 40 人学級で行き届いた教育ができないのです。 ・ 子どもが今後減っていくのに、今存在しない過大な大規模校を作るなどというのは狂気の沙汰です。絶対にやめてもらいたい。 ・ 大規模校は 35 人×8 学級＝280 人ぐらいまでがせいぜいです。その学校にしても将来的には 30 人×8 学級＝240 人ぐらいを目指すべきです。

	・なぜ全部４０の倍数なのですか。全県全学科４０人学級にそろえて、少人数学級を抹殺するのですか。とんでもない。１２１人から１５９人の学校を作らない理由が全く分からない。学級規模を段階的に小さくすることで教育条件を充実させることを基本方針とすべき。
40	エリートの育成に特化した私立高校、甲子園出場に特化した私立高校など、私立高校は方向性を明確にして、志の一致した少人数の生徒に対する教育方針を充実させている。このような情勢の中で、大規模校を新たに設置して、総花的な展開を進めても、生徒は選択に迷い、時間を浪費し、1095日の高校生活を目指に向けて充実した時間を過ごせない。このことは、過去にコース制や総合学科を取り入れた失敗例が多く見られる。担当者の報告に惑わされず、精緻な調査とデータ収集に基づいた判断を望む。地方公教育の目的は、地域社会・経済の発展に貢献できる人材を育成することであり、自己実現の達成は個々人が努力する目標である。これを混同し、人口密集地の多額に費用を投入した先行研究に追随するような計画は、最初から無理がある。高校は全ての機能充実を目標にするのではなく、もう一度原点に立ち返る必要があるのではないか。大規模校についての一つの提案であるが、私立高校に委託するのはどうであろうか。現在、1,000人を超える在校生を有する私立学校は存在するし、県外では私立のGIGAスクールの先行事例もある。
41	大規模校のデメリット（課題） 大規模校に存在する問題点として、次のことが挙げられる。生徒の学習状況や学習内容の把握や個別指導が難しくなる。また、担当するクラスが多くなると、毎時間の授業の評価に時間がかかり、教員の負荷が増える。 A 生徒の意見や感想を発表する機会や、様々な活動において一人一人がリーダーを務める機会が少なくなる。 B グラウンドや体育館、特別教室などの使用が制限される。また、部活動の種類が増えても、活動場所が確保出来ない。 C 教材・教具など全員分の整備が難しい。 D 生徒の家族状況や地域との教育環境などが把握しにくく、保護者や地域と連携した生徒指導が出来ない。 E 体育大会、文化祭、遠足、研修旅行等の集団活動・行事の実施が難しくなる。 F 体育や芸術の集団学習の実施が制約される。既存の施設の数やスペースでは賄いきれない。 G 教員と生徒の心理的距離が遠くなり、両者の信頼関係が築きにくくなる。 H 生徒が一同に会したり、避難時の移動に時間がかかりすぎる。校舎全体の見直しが必要である。 I 保護者等が一同に来校したとき、駐車場の確保が難しい（教員分を除いても）。 以上の問題が懸念されることから、県内の高校の規模は１学年４～８学級が適正と考えます。総じて、思うところは、中学生やその保護者が一番願っていることは、何より、近くに安心して学べる場があることである。１２学級については再考願います。
42	「４８０人の大規模校１校」ということを中規模・小規模をあわせた全体の学校配置と切り離して、先行して決定してしまうのは不合理。学科構成の検討がようやくこれから。そもそも４８０人の大規模校を作ることが必要なのか。「子どもが減るのに今ある一番大きい学校（３２０人）よりも大きい学校を作るのはおかしい」、「４００人の学校を作るなら２００人の学校を２つ作ってほしい」、「大規模校を作るとそれだけ学校の数が少なくなるので通学の便が悪くなる」といった声が噴出して、「４００～４８０人の大規模校」を「３２０人以上」に修正した。３月に基本方針を見直した経緯が無視されている。「県東部に４８０人の学校を１校新設」としているが、その学校に県西部全域から通学することはできない。全県で１校は教育の機会均等の観点からも問題。素案に示された「４８０人の大規模校」が生徒が行きたいと思う魅力的な学校とは思えない。大きく定員割れすることが強く懸念される。（というよりも容易に想像がつく。）
43	１月の「たたき台」以降、様々な場と機会を作って意見を聞いてきた結果として、「400～480人」としていた大規模校を「320人以上」と変更したはず。「480人規模」に戻すのは、多数の県民の意思と検討会議委員の意識の乖離の大きさを示している。理由を２つ示しているが、結局は学校数も一旦「20～22校」としていたものが「20校」とされている。「少しでも近い場所に、一つでも多くの県立高校を残してほしい」という率直な県民の願いを無視する暴挙だ。大規模化しても「教員配置が充実」はしない。人数が多くなるだけで教員一人当たりの生徒数はさほど減らない。昨年のアンケート回答をほぼ唯一の拠り所としているが、「学習内容の選択」幅を広げるためには、生徒数あたりの教員配置を増やせばよい。中・小規模を想定する他の類型でも、「柔軟な教育課程」「少人数・習熟度別授業」「専門性の高い教員」などとあるが、本当にこれを実現するとすれば、大規模でなくても現在より「教員配置が充実」するはずである。
44	大規模校とあるが本当にこの人数を教員が管理しきれぬのか。今の時代、若者は年長者だからと敬うことはありません。ちゃんとした関係を築かないと相手にはしません。大規模校になると関わりのない教員が多数おることになり、生徒は知らない大人に急に指導を受けたりします。そうすると心の病になったり、素行が悪い方へ流れてしまったりと、よりよい学校経営には相応しくないかと思えます。要望としましてはこれほどの大規模校はいらない。また新築にする必要もない。増築でよい。

45	大規模校の設置に反対します。県は埼玉県を視察していますが富山県と同程度の規模の県を視察すべきです。埼玉県でうまくできているということが即富山県でも成功するという根拠にはなり得ないと思います。大規模校は生徒の選択肢を広げるとされていますが、中小規模の高校の数を過度に削減することは、生徒の通学の面から考えると選択肢が大いに狭められることになります。県の構想はあまりにも一面的で生徒の生活の全体像を見ていないと考えます。大規模校の設置を取りやめて中小規模の高校のより多い存続を強く望みます。
46	何点か思うことを項目ごとに記載致します。 【大規模校設置について】 １．「富山市の大規模校に希望のある者が果たして県内のどこからも通学して学習できるのか、そしてその学校により予算がかけられるということで公教育の平等性、教育の機会均等が保証されるのか。」 ２．「創ったはいいが、その大規模校が定員を満たすのか」 ３．「大規模校は教職員配置数が多いというが、定員崩し（正規の教員の財源分を非正規の複数教員に置き換える）の実態も既にあり、多様な科目を実施するために非正規教員が多くなり、日々生徒と接する正規の教員が適切な数として確保されるのか 【大規模校設置により危惧される子どもたちや家庭への影響】 ４．「周辺部の高校の数が少なくなるので、子どもたちは通学に時間がかかったり交通費がかさむのではないか。また公共交通機関の利便性は保証され続けるのか」 【地域への影響】 ５．「周辺部からの人口流出が加速して、『地域』が衰退、なくなっていくのではないか」 【生徒の実態と教育効果】 ６．「不登校生徒が年々増えている中、複数の小規模校の方が１人１人をより大切にきめ細かに学校全体として生徒に関わっていけるのではないか」
47	大規模校の公共交通機関について、大規模校を公共交通機関の高い所に設置しても、通学時間やコストなど、家庭に負担がかかってしまうのではないかとと思う。
48	大規模高校について、新校舎と記載されていましたが、かなり費用がかかると思います。その費用はどこからくるのでしょうか。富山の伝統工芸や文化について学べたり、職人育成をしたりすることに特化したものがあっても良いのではないかと思います。そうでなくても、富山の伝統や文化を学べる機会があると良いと感じました。
49	「新しいタイプの学校」を選択肢を増やすという理由だけで作るべきではない。中高一貫校は本当に必要なのか。何のために作るのか。どんなタイプの中高一貫校なのか。議論は深められていない。中学受験を激化させる懸念。公教育が中学校段階から複線化することが教育の機会均等に反すること。他県の中高一貫校が必ずしもすべてうまくいっていない現状。いまさら？いまから？これもまた通学可能な生徒は限定される。中学生は高校生以上に通学の負担を考慮しなければならない。 国際バカロレア認定校に至っては誰がそれを望んでいるのか。それを可能にする財政負担を他に優先して行うことに、血税投入に県民の理解が得られるのか。「通学の便」は生徒・保護者にとって重要な課題。公共交通機関の維持が困難な現状に対する切迫感が県当局から全く伝わってこない。広島教育長は今年の意見交換会で「私は高校時代片道１時間半の電車通学だったが楽しかった」と語っていたが、能天気を超して不謹慎な発言だった。公共交通機関の便は４０数年前よりも悪くなっているし、今後さらに悪化が強く懸念される現状である。そういう中でどう生徒の学習機会を保障していくか。高校再編計画を立てるのに当たって重要な要素であるが、このことへの具体的な配慮は素案のなかに全く見えない。
50	現在の校舎をこのまま利用すると、学校数が多く、維持管理費が増えるという課題については、中高一貫校の設置が検討されていることから、全ての市町村に中高一貫校を設ければ、維持管理費を県と市町村で共に負担しながら、生徒が通いやすい学校を残すことができると思われる。高校再編が要因となり、人口減少を加速化させたり、富山県の経済を衰退させたり、魅力を失ったりすることのないようにすることが重要だと考える。
51	【国際バカロレア認定校について】 「国際バカロレア認定校にはかなりのお金がかかるが、他校との財政支出のバランスがとれるのか。また、多額の税金をかけたがおそらく『認定校』卒業生で県内に残る人は、ほばいないのではないかと」等、大規模校設置を見直し、これから更に想定される不登校生徒・支援を要する生徒・外国ルーツの生徒増など生徒の実態も踏まえて１人１人に目が届きより多くの先生方と関われる環境のため、２０校までの学校数に減らす必要はないのではないかと思います。よろしくお願い致します。
52	射水市内は富山新港が臨海工業地帯となっており、多くの事業所（工場など）があります。外国人（パキスタン、ロシア、ブラジル人など）も多く住んでおり、射水市内の中学校では多くの生徒が在学しております。富山県内の工場などの人出不足を補うため、県立高校の職業科ではそのような多くの外国人が県立高校に受け入れて学べるよう環境整備を行ってみたいと思います。たとえば、職業教育の中に通級教育（読み、書き、そろばんなど学習指導、生活指導等）の充実を図り、県立の支援学校の教員を高校に派遣するなど、工夫すればできそうなことが多くあると考えます。
53	まずは、直ちに県立高校入試制度を規制緩和し、県外（東京、神奈川、埼玉、千葉、札幌、愛知、大阪、京都、神戸、福岡県等の中学生人口の多い地域）の生徒が推薦入試や一般入試に県外の生徒が多く受け入れられるような入試システムの整備をお願いしたい。他県からの中学生が富山県の高校に入学して部活動で活躍したいと強く希望している生徒も多いの

	ですが、未だに一家転住やへき地等でないと受験できないような昭和時代から続く古臭い県立高校の入試システムをもっと柔軟にし、他県から多くの中学受験生が富山県の県立高校に受験できるように是非ともしていただきたい。国立高専や他県の県立高校入試システムを参考に来年度からでもすぐに実現いただきたいと強く思います。南砺平高校は今年度は8名の県外生徒を受け入れた実績があります。まずは、全県的な県立高校に裾野を広げて富山県内で学ぶ高校生の人口を増やすような施策をお願いしたい。そこからがスタートと考えます。隣接する石川県、新潟県、また高知県等は県立高校入試に他県からの中学生を多く受験できるようなシステムが構築されております。そのうえで、県外からの生徒を多く受け入れるような生活施設の整備してもらいたいと思います。たとえば、青少年の家、空き校舎、高齢者施設と併設(食事等の提供など県または市町村が委託料負担など)し、高齢者の健康寿命を上げ、高齢者と孫世代の若者が一緒になって地域に元気を与えるなどや、また市町村の空き家の活用なども検討してもらいたい。佐賀県などは、民間出資による県外選手を受け入れるジュニアアスリート寮(寮費が安い)が設置されて県立高校に通学しています。まずは、とにかく県内の高校生の人口を増やすような工夫を行い、そのうえで、大規模校、中規模校、小規模校の構想を行っていただきたい。審議会では、そのような意見を出す委員の方はおられなかったのでしょうか。県議会では、予算特別委員会などで、県外への部活動による流失などが議論さされていましたが、先ほども意見を述べましたが、「新時代とやまハイスクール構想」の実施の前に、来年度からすぐにでも富山県の県立高校に受験がしやすくなるような高校入試システムに変えていただきたいと思います。
54	中高一貫や全国募集なども行うのもいいと思った。
55	・中高一貫校、国際バカロレア認定校はいらない。 ・全国募集を無責任に増やすべきではない。
56	令和7年8月19日付の標記資料を見させていただきました。そこから一県民として、また子どもを持つ一保護者として、また公立学校の一教職員として意見を述べさせていただきます。 まず、人口減少や少子高齢化、多様化する考え方に対して旧態の高校の在り方では対応が難しい、などのことから全ての県立学校を再構築することには賛成です。一方で次のことについては現場の様々な声を良く聞いてから進めることを強く求めます。 子どもの通学に負担をかけないよう設置場所に配慮してほしい。→児童数や予算面だけでなく、公共交通機関の状況などと照らし合わせながら設置場所については「こどもまんなか」の議論をお願いします。8ページの1行目に「目安は20校」と明記されていますが、子どもへのどのような配慮の結果で20校となったのか、具体的に明記されていません。どのような配慮をしたのか具体的に示してほしいと思います。もし児童数だけで決めたのであれば、学校数も含めて「こどもまんなか」で再検討をしていただき、設置場所を決めてほしいと思います。
57	・令和20年度まで、各年度「募集率」をどれだけにしていくのか。この表は全体が最大4200人。これは募集率70%の想定。小規模校が120人をどれだけ下回るか、その度合いによって総生徒数はさらに減る。募集率は70%台を割って60%台まで落ち込む。しかし、来年度の募集率は73.1%である。この募集率にするなら、生徒の総数は4200人ではなく、4386人になる。186人多くなる。学校を1校増やせる。 ・結論として、令和20年度の目指す姿など全く描けていない。募集率が未定だから募集生徒数が決められない。学級規模をどうするか方針が示されていない。今やっている職業系専門学科を中心とした少人数学級をすべてやめるのか。普通科割合をどうするかも未定。来年度募集定員で従来の66%程度という目安が、そっと廃止された。姑息である。しかも目安を下回っている上に学区間格差が10ポイント以上に開いている。しかし、その事実は覆い隠している。これも不誠実である。そもそも募集生徒数を定める際の4学区ごとの中学校卒業生に対する募集定員の割合(募集率)は2年前までは学区ごとの格差は全くなかった。 しかしこの2年間で募集生徒数の定め方が毎年ばらばらになっており、学区間の募集率の不均衡が生じている。この4学区という考え方をどうしていくのか。東部・西部とどれだけ違うのか。さらに全県で1校の大規模校なるものの480人は県の東部・西部の中学卒業生のどれだけを配分しているのか。このページの表によれば東部400人西部80人。この理由は?令和20年度の県立高校の姿は、決まっていないことばかり。この程度の完成形から逆算して5年前、10年前の姿を描くことはできないし、できていない。したがって案全体を一から考え直すべきである。 ・段階的に少人数学級を拡充していくべき。令和20年度の学級定員はどの学校も30～35人程度とする前提で全体像を策定すべきである。
58	・素案に対する総括的な意見として以下に示します。 ・全面的に賛成する。理由は、実際問題として地域に子どもがいないという現実である。この実施方針は、現在産まれた子どもが高校に入学する頃を念頭に作成されており、想定ではなく事実に基づいている。少子化ではなくて、子どもがいないから再編統合するしかない。観念論や理想論ではなく、現実立脚した方針である。反対する人たちには、ぜひ「市町村別、年齢(各歳)別、男女別人口(令和6年10月1日現在)(富山県統計ワールドより)」を示して自分の市町の現実を受け止めていただきたい。
59	「新時代とやまハイスクール構想」実施方針(素案)9ページ、中学校卒業予定者数の減少について、対策として、 ・経済的支援の強化、保育園から高校まで全ての教育費を無償化(義務教育に)

	・子育て世帯への給付金拡大、第1子から手厚い支援をする。
60	・1年ごとの生徒数の減少に対して、募集定員をどんな方針で決定するのか。今回使った過去4年間の入試倍率の平均を使った、機械的な学級減は来年度やめるべき。今回過去の定員割れを理由に40人学級へ逆戻りの上に学級減とされた入善・上市・八尾・富山西・伏木の5校の二の舞は起こすべきではない。 ・段階的少人数学級を進めることによってしか、地域間バランスを取ることは不可能。教育の機会均等、学習権の保障を実現するにはそれしかない。令和21年度の子どもの数が5567人で県教委にしたがい募集率70%とすると全県下の募集定員総数は3896.9人。480人のマンモス校の占める割合は12.3%。富山県全県立高校全日制生徒の8.13人に一人がこのマンモス校に通うことになる?正気の沙汰とは思えない。480人の学校はどう考えても不要。というか存在が害悪。

＜第1章＞「新時代とやまハイスクール」の設置方針

61	日頃よりよりよい県政・教育にご尽力いただき関係の方々には市民として感謝しております。 新時代とやまハイスクール構想を拝見させていただきましたが、正直かなり難しいものだと感じました。 ・学校は地域の方々のご協力で成り立っている部分があります。それをこのような難しい言葉とカタカナを並べて、地域の方々と距離が出てしまうのではないかな。 ・子どもたちと保護者にとっても、このような大改革は混乱を招きます。勉学を優先すべき子どもたちにこのような必要のない混乱を与えるべきなのでしょうか。 学校の再編も規模の変更も賛成いたします。しかし様々な偏差値の子どもたちをこのように一様にかえてしまうことには不安を覚えます。 名称と内容をもっとわかりやすくすべき。 このような偏差値でわかれるような学科の分け方を県が率先してよいのか。 拙く具体的に欠ける文章で伝わるのかわかりませんが、ご考慮いただきますようお願いいたします。
62	再編の中でいわゆる御三家をはじめ、偏差値の差をどう反映するのか。こんな小さな富山県に大規模校はいるのか、理解できない。兎に角、置いてきぼりを無くしてほしい。落ちこぼれを出さないかが大切である。
63	・「総合選択」HS 魅力がない。間違いなく定員割れする。学級減対象となり続けて気が付いたら中規模校になっていたという落ちがつく結果が予想される。 ・プログレス 普通のいわゆる進学校? ・STEAM 一過性のはやり。現行の探究科学科と普通科の併願制度は決してうまくいっていない。普通科生徒に無用の劣等感を持たせている入試制度はおかしい。
64	「普通科7類型」全部が全県域のどこに住んでいても通学できるのか。ある子は7つとも通える。ある子は5つ。ある子は3つ?。生徒がどこに住んでいるかで行きたい類型の学校に行ける子と行けない子を作り出してしまふ。普通科を細かく色分けすることは教育の機会均等を崩すことになる。普通だから普通科。普通科の共通性を軽視するのは間違い。「7類型」は事実上のスクールミッション。県教委がこれを細かく規定することは各学校の裁量を奪うことになる。特色は、目の前の生徒への現実的な各校の努力の結果、出てくるもの。特色化・魅力化の押し付けをやめよ。今県がやるべきことは学校現場に、教員と予算と裁量を与えること。商業科と家庭科を一部止めて普通科コースに変更すると教員数が激減し、今やっている講座はできなくなる。県単独措置で国並み以上の教員配置をしないとコースを機能させることはできない。 素案の普通系の6類型は、ほとんどコース制。資源の投入がなければ従前、現在と同じ轍を踏むことになる。標準法では「コース」に対する教員配置の加算は0である。コースにバウ色のイメージを持つのは幻想である。県教委がその事実を全く説明していないのは不誠実かつ無責任。肝心の職業系専門学科のあり方が深められていない。バランスのとれた配置を行うには方針の具体化が必要なのに、これまで職業系専門学科の配置を詰める議論をしてこなかったために方針がないから、とりあえず普通科割合を下げてきた。66%程度という目安さえ今回なくなった。それで定員割れと騒いでいる。これまでに職業系専門学科のさらなる少人数学級拡充を進めるべきだった。
65	・グローバル 教員を県単独措置で増員する気があるのか。現在、コース制で疲弊している学校が多い。 ・未来探求 コースへの過大な期待は危険。 ・地域共創 小規模校は普通科単独校のみという縛りは反対。
66	・34校を20校に減らすことに絶対反対。減らしすぎ。そこまで減らすと通学可能な範囲で学びたい学習を保障することが極めて難しくなる。学習権の保障、教育の機会均等の観点から絶対反対。 ・令和20年度頃の完成までが「途中過程」という位置づけはやめるべき。今ある学校が仮の姿という位置づけは教育上大変問題。学校に仮の姿はない。今いる生徒にとって今ある学校が真の姿。

	・移行準備校は、いつ、何を準備するのか。全く見えない。どの学校とどう統合するのか。「再構築」なるプロセスに当該校はいつから、どのように参画するのかしないのか。全く見えない。「追って沙汰を待て」としか聞こえない。
67	20校まで学校数を減らすと通学の便を考えると生徒の居住地による学習の機会均等が保障できなくなる。通学手段としての公共交通機関の維持が課題。通学の便を考えた学校の適正な配置が必要。R20年度の姿からの逆算（バックキャスト）だけでなく、現在の中学3年生、中学2年生と目の前の生徒への対応をしっかりやるべき。R7年度の姿を1年、1年どうしていくのか（フォアキャスト）という視点が欠落している。
68	「新時代とやまハイスクール構想」における、新型HSの配置の方向性については概ね賛成である。高等学校で入試を行うのは学力や学習への意欲・態度の能力を学校ごとに揃える目的があり、それによる序列化はそれぞれの学力に合わせた指導を行うために致し方無いことである。しかし、近年の定員割れによってその効果が無くなっているのも事実である。担任の生徒対応に追われ、本来の教材研究に割く時間を捻出するのに苦勞する様子が見られる。故に、各学校の伝統や地域の反対はあろうが、一度地殻変動を行って、学校ごとの役割を決めるのには賛成である。配置については、各地域の実態を見極めて適切な判断を願いたい。
69	各期、特に第1期の方向性について（素案p12・13） 職業系専門学科については、第3期までほとんど手が付けられない。現在の普・職比率が中学生の志望と乖離してバランスを崩しているのは、職業系専門学科の学科構成についての方針がないことが大きな要因である。年々少子化が進む中でこのまま進めば、専門性を軽んじた「普通科コース化」による対応にならざるを得ない。「13年後」ばかりを見て、現在の高校生や今後10年間に高校に入学する生徒のことを考えていないのではないか。「今の子ども真ん中」の検討をしてもらいたい。
70	「新時代とやまハイスクール構想」実施方針について大賛成です。ただ気になることは、この方針が県民および教職員にも周知されていないと思われます。今後、「新時代とやまハイスクール構想」を進めていくにあたって、段階的に13年かけてゆっくり進めていくと、従来の再編統合と変わらないと思います。1回目で〇〇高校、〇〇高校は募集停止です。2回目は〇〇高校です。とその都度、提案していると、その学校のOB、地域からの反発は必至です。また、13年という長い期間で構想を実現しようという計画ですが、果たして実現するのでしょうか？知事、教育長は13年後変わっているのではないのでしょうか？新しい知事が大規模校建設反対となれば、この構想がなくなるのではないかと懸念しています。そこで、この構想を実現するために、最終的に使用する校舎は〇〇高校の校舎です。そして、その学校は地域共創に重点を置きますなど。現在、考えている教育内容（STEAMやグローバルなど）と校舎をマッチさせて、規模とともに最初に示すべきだと思います。その際に、新しい学校ができるということをもっとアピールすべきです。県民は自分の母校は残っていると思っています。新時代に残る学校20校には新しい学校の名前をつけられたいと思います。例えば、富山商業の流れを組む学校をつくるのであれば、そう示すべきだと思います。このままでは、従来の再編統合を段階的にゆっくりするのかなと勘違いしている県民がほとんどだと思います。「新時代とやまハイスクール構想」はとても素晴らしい構想なので、もっとスピード感をもって実施しないと実現しないと思います。是非、実現させてください。県議会議員が提案されている5年前倒し、10年後の実現に賛成です。

<第2章>今後の検討の流れ

71	・28年度（令和10年度）の第1期校の再編実施は断念すべき。それを実施するには26年2月までに再編対象校を公表しなければならないが、とてもそんなことができる準備、検討状況ではない。 ・大規模校の設置方針は撤回すべき。したがって14ページの大規模校の欄は全部削除すべき。
72	・「再編・統合は、新高校開設の3年度前の2月までに決定」というこれまでの進め方は、中学生の進学先の決定過程を考えれば厳格に守られるべき。現在の進捗からして「2028年度開設」は間に合わない。早く断念すべき。自民党PTの「2年かけて全体像を示す」という考え方にも耳を傾けるべき。「2年」と限定するものではないが、「バックキャスト」と言いながら最終的な全体像が「数」と「抽象的イメージ」だけなのはこの「素案」の欠点でしかない。知事は「募集停止となる高校の在校生や入学を希望する中学生への負の影響が大きい」と答弁しているようだが、現在はすべての高校と小中学校の子ども・保護者に不安と疑心暗鬼を生じさせている。もっと真剣に具体的な高校像と配置を考えれば、「20校」の乱暴さも見えてくるし、自分事としての県民からの意見も汲み上げられる。そこから逃げて結果を得ようとするのは、県民を欺くことになる。p14の今後の検討の流れには「検討会議」がないが、もうやらずに総合教育会議だけで進めるということなのか？
73	10月に実施方針を確定させ、そこから対象となる具体的な学校名・学科名が出てきて、来年2月までに、わずか3か月ほどで第1期（R10年度頃）再編計画を立てるのは乱暴すぎる。R10年度入学生からスタートは断念すべきである。「9～10校なくして新しい高校を5校つくる。普通科系のみ未来探求4校とグローバル1校。160～280人の中規模校」ということだが対象となる学校について具体的には何も出てきていない。R8年2月に再編統合計画を発表するのはあまりにも乱暴。県民の理解は到底得られない。

	また、職業系専門学科を後回しにするとすると職業系専門学科について少人数学級を拡充していかないとますます普通科割合が下がってしまい、普通科志向の強い中学生の進路希望との乖離がますます大きくなってしまう。
74	・検討会議の委員構成が不適切である。設置者である県教委と県（総合教育会議の構成者）が入っての検討は、検討のための原案作成および資料の作成・提示をする庶務担当と委員が一体化してのものになり、広く県民の意見を反映した客観性のあるものにはならない。さらに、第2項委員は4割以上が経済界関係者である。戸出の意見交換会で小学校PTA役員の方が「誰もこの会のことを知らなかった」と発言されていたように、団体としての議論がされているとは思えない。要するに、現在の県立高校および小中学校在校の子ども・保護者の直接の反応・受け止めを検討過程から締め出すことになっている。 ・「一部を公開しないことができる」という設置要綱だが、今回示された「素案」を見ると、非公開で検討する必要性は全く感じられない。これまでの再編・統合の検討においても最終的に対象校を絞り込む段階での一部非公開はあったが、今回の「素案」は極めて抽象的・一般的な内容の段階であり、これを「非公開」として議論してきたことは、単に各委員の発言や庶務（事務局）から示された資料を県民に隠すためとしか思えない。「隠したい検討」の結果である「素案」は、それだけで正当性を欠く。

＜その他＞

75	・令和20年度頃までの生徒数減を見越して、すべての高校を再構築して新たな学校を設置、現34校を20校程度にしようというが、一部の関係者の検討を口実に、余りにも乱暴な手法に他ならない。 ・40人学級を大前提にしているが、少人数学級の積極的な意味、一人ひとりの生徒の「学び」「意欲」を高める観点は、初めから除外しているようにみられる。不登校などを減らすには、20～30人が良い。大規模校の積極的な意味のみを殊更に強調するのは偏向している。 ・大規模校1校を富山につくれば、地鉄など公共交通の縮小化の中、生徒・保護者の負担は増大する。また建設費はかなり高額となり、他の施策への影響が大きい。 ・地域から高校がなくなると、現在既にその傾向が生まれているが、地域社会と協働した学校づくり、街づくりが失われる。 ・「普通教育」とは、主権者として育てる共通の教育が基本であって、特色を競い合うことではない。中高一貫校、国際バカロレア認定校の設置が謳われているが、その必要性は疑問であり、問題点も含め議論がもっと必要である。 ・トップダウンで強引に進めることをやめ、学校関係者・地域住民・自治体関係者、そして生徒たちの意見をよく聞くべきである。
76	1. 未来に対応する学びの充実 2. 学びを支える学校環境の整備 3. 全ての生徒を支える支援体制 4. 地域と連携した教育の推進 5. 多様な視点を踏まえた学校づくり 1. 教育内容の充実 AI・デジタル、グローバル社会に対応した授業を充実させる。地域課題や福祉・環境など、実社会とつながる学びを増やす。 2. 学校環境・施設 ICT機器やオンライン学習環境を整備する。部活動や生徒会活動のための施設を充実させ、学習との両立を支援する。 3. 生徒支援・多様性への配慮 個別指導や相談体制の強化。多様な背景を持つ生徒が安心できる環境づくり。 4. 地域との連携 企業・大学・NPOと協力した体験学習や課題解決型学習を推進する。地域資源を生かした探究学習や地域貢献活動を重視する。 5. 意見募集の視点 県民：生活や将来に役立つ学びになっているか。教員：指導・教材・研修が充実しているか。
77	＜そもそも何のための再編なのか＞ 子どもが減るから学校を減らす？ 数合わせの議論に終始している。学校現場が直面している課題、困難。その現状をどうやって改善、解決していくか。その具体的対策となるような高校再編とすべき。「子どもが減るが教育予算と教職員数は減らさない。より行き届いた教育の充実のために少人数学級を拡充する」、そういった県の姿勢を「基本方針」として打ち出すべきだが、その姿勢は微塵もない案になっている。あり方検討委員会報告、振興検討会議提言、ワークショップ、意見交換会、アンケート、県議会請願採択、高校生県議会、市町村の意見。これら県民の声を踏まえず、知事・教育委員の意向を偏重している。知事や教育委員の趣味の世界的抽象的なイメージ先行の議論によって、素案は学校現場の実情、子ども・保護者・教職員の願いから、ますます乖離している。実施方針案は抜本的な見直しが必要である。

78	方向性はとても合っていて良いと感じました。
79	まず検討委員ですが人選が偏っているのではないのでしょうか。学校について専門的に判断できる専門家や学校の現状や問題点をよく知る人が少なくないのでしょうか。素案についてですが、今の学校の問題点等について学校を見直す計画だと思うが、学校の統廃合と教育内容等の見直しは切り離して考えるほうが良いと思う。まず富山県のどの地域からも高校を選べるようにするべきと思う。若い人たちが住む場所を選ぶ時に将来子供を持つことを考えると高校が無い/選べないところには住まないと思う。今は旧富山市内に高校がたくさんあり、人気もあるが、それはそれ以外の地域にも人が住んでいて、いい生徒が富山市に集まってくるからだと思う。富山市以外が廃れていくと結果として富山県自体が廃れていくと思う。 また素案では学校をいろいろと分類してあり、高校には必要な要素だと思うが、学校ごとに分類してしまうと、将来時代の変化に対してそのことがしがらみとなり変化への対応が難しくなると思う。さらに教育の目標である「生徒を人間的にどのように成長させるか」という視点が足りないと思います。また、なぜ学校によって新しい姿に移行する時期が違うのでしょうか。今の問題に対して見直すのであれば同時進行で全体的に見直すべきではないのでしょうか。学校は教員・生徒・設備・教材など必要なものがたくさんあり、急には変わりません。特に大きい学校であれば大変だと思う。また1学年12クラスの大規模の学校を作る案があるようですが反対です。過去にも小中学校で10クラス以上の学校があった時期がありますが、ほとんどの学校は荒れていたと思います。
80	・子供が減っても教育予算と教職員数は減らさず、より行き届いた教育の充実のために少人数学級を拡充する。そういった姿勢が微塵もない案である。 ・県立高校の基本目標 →「時代に適応する人材の育成」とあるが、人材の育成ではなく、人格の完成を目標とすべきである。 ・来年2月までに第1期再編計画を立てるのは乱暴すぎる。R10年度入学生からスタートは断念すべきである。 ・「募集人数＝入学受け入れ上限人数」という位置づけを明確化すべき。それを口実とした統廃合はやめる。 ・商業科と家庭科を一部やめて普通科コースに変更すると、教員数が激減し、現在行っている講座ができなくなる。コースを継続して機能させるために、県単独措置で国並以上の教員配置をすべき。 ・素案の普通系の6類型は、ほとんどコース制である。資金の投入がなければ、現在と同じ轍を踏むことに。標準法では、コースに対する教員配置の加算は0である。県教委がその事実を全く説明していないのは無責任である。 ・通学の便は、生徒・保護者にとって、とても重要な課題である。今後さらに悪化が強く懸念される。学習機会の保障をするための具体的な配慮が素案からは見えてこない。
81	「新時代とやまハイスクール構想」について意見を申し上げます。人口減少を機に、適切なサイズで高校を運営していくことは、致し方ないことだと思います。また子どもたちの学びが充実することには賛成です。ただ、未来の富山の姿は、地域との関わりの先にあることを忘れてはなりません。ところが、(1)普通系学科の教育内容を拝見すると、「地域共創」以外で、ふるさとの誇りと愛着を持つ機会が見受けられません。全体としては、人材流出を加速させるような教育内容になっている印象です。ずっと富山県内にいることが良いとも思いませんが、一度富山を出た後に戻ろうと思えるかどうかが大切だと思います。中学校の14歳の挑戦だけにとどまらず、高校でも働く場所としての富山を考える機会を積極的に提供していくことが必要と考えます。 昨年、上市高校とハッピー上市会が、文部科学省と経済産業省が共同でキャリア教育の取組みを表彰する第13回「キャリア教育推進連携表彰」を受賞しました。 ▼第13回「キャリア教育推進連携表彰」で優秀賞を受賞！富山県立上市高校とハッピー上市会のアツい地域力。 https://prtimes.jp/story/detail/rX5YVwuPQDb こうした取り組みは一朝一夕にはできるものではありません。そしてこうした蓄積が、富山の将来を確実に支えていきます。上市高校とハッピー上市会の取組みには、「新時代とやまハイスクール構想」のさらに先を示唆しています。翻って「新時代とやまハイスクール構想」の全校に取り入れるべきヒントがあります。未来の富山の姿は、地域との関わりの先にあります。
82	良いと思う。
83	一度県立高校を全て壊した後、20校を一から作るのは時間も労力もかかるのではないか。
84	地域とのつながりだけでなく、世代を広めてつながったりすると良いと思う（小～高まで広く）。その方が進路とかも考えやすい。
85	これらの記事を読んで「自分たち高校生のために未来に合わせた学校を考えてくれているのだな」と思い、とても嬉しい気持ちになりました。しかし、高校がどのような風に変化するのかはあまり分かりません。学校がもし減ったりしたらどうなるのかという不安もあります。だから、生徒の声ももっと聞いてもらえると安心できると思いました。
86	人と人との関わりが減るので良くないと感じる。
87	私は、私自身、高校受験をする際、就きたい職に関する専門的な知識を学べる高校に行きたいのにそのような高校が富山にはなく、やるせない気持ちになった経験があるので、コースや学科が豊富になるのはとても良いのではないかと思います。

88	現存する公立校が減ってしまって、地域が活性化しなくなってしまうおそれがある。また、今ある高校の歴史や伝統が失われるおそれがあり、学力の高さなども失われるおそれがある。なので反対である。
89	高校生として、多様な学ぶ場を選べるようにしてくださる制度は、自分の可能性を広げるチャンスになると思うのでとても良いなと思いました。また、普通科や専門学科に加え、グローバルに地域と関わる学びなどは、将来にもつながっていく部分もあると思うので、早いうちから将来について考えることができる良い機会となると思いました。実際に高校に通っている立場として、少し心配なことは、学校が統合されると、遠くの地域から通学する生徒は部活や勉強などの両立が難しくなると思います。そのため、交通の面や環境づくりなどをお願いしたいです。
90	1 頁に記載されている「基本目標」には、『現在のすべての県立高校(全日制)を再構築して新たな学校を設置する「新時代とやまハイスクール構想」を進める』と記載され、大・中・小規模の学校で構成するとなっています。大規模校の設置については、大規模校に隣接しない居住地からの「通学する生徒自身で簡単に交通手段が利用できる」のか不明です。また、交通費・通学時間・親の負担・精神的負担の増加が考えられる。大規模校化では、遠方からの通学ができなく教育の平等が保てるのか疑問です。8 頁の欄外には「1 学級 40 人として学級数を表記した」と記載されています。生徒数 4200 名、学級数 105、学校数 20 となっています。9 頁の※2 には、平均募集定員は、全日制 34 校として算出と記載されています。それに基づいて R20 年の定員数は 4248 人となり、8 頁 4200 人の記載内容と計算が一致しない矛盾があります。また、数値で示すのであれば同一の基準で説明しなければ信頼性が疑われます。7 頁には「中高一貫校の設置を目指す」と記載されていますが、2026 年度から 3 年間かけて中学校では 35 人学級が順次導入予定です。中高一貫校を目指すのであれば「1 学級 35 人を基本に設定する」必要があります。また、学級数も 15 学級増加しますので学校数も増やす必要があります。15 頁には「新時代とやまハイスクール構想検討会議」の中に『「大規模の設置方針等」で非公開』との記載がありました。検討会議の非公開で実施されたのであれば、誰がどの様な発言をされたかを検証する必要があるなので、議事録を公開してください。また、県内市町村別の中学校卒業予定者数や人口移動調査に基づく説明資料を添付すべきであります。現状では、実施方針(素案)については、反対であります。
91	生徒達の好きなこと、得意なことを伸ばし才能の原石を磨き上げる面ではとても新時代的な 1 歩だと思います。普通科では文理を分けた後に、学力に合わせてさらに 2 つのクラスに分けることが良いと考えました。 またたくさんの学科を新設出来ることは教職員の減少もあり難しい問題だと考えています。そこで地区に置ける高校設置数を見直し合併を含めた対策が必要だと思っています。
92	学校についての追加の導入 特別支援の導入も少し考えて欲しいです。また、未来探求みたいに今の時代に乗るために AI の活用やワード、パワーポイントの活用をどのプロセスにも少し追加した方がいいと思いました。
93	新校舎の建築費よりも、教員の数を増やす人件費に充当してほしい。1 クラス 30 人以下、できれば 20 人以下を目指してほしい。個別最適化した個人別の時間割編成を担当が確認するには、20 人が限度。良い教育をするために教員の数を他国のように増やしてほしい。国ができないなら県独自の予算で。 A 大規模高校は非現実的である。大規模校を一つ建設して部活も勉強も県内一強で、一人勝ちを目指しますか？他の学校に通う生徒は、それで楽しいでしょうか？1 学年 300 人程度しか経験して来ていない教員が 400 人越えの学年を運営していくのは負担。中、小規模校を県内各地に分散し公共交通機関を維持する。通学時間が増えると高校生や家族にとっても毎日の生活が大変になります。遠距離通勤になると交通費も高くなります。 B 計画の策定には現場の教員や保護者の意見も充分に聞いてほしい。教職員組合の代表や不登校支援団体の代表も検討会メンバーに加えてほしい。 C 教育課程の柔軟な運営によって他校や大学の授業を受講したり、学校行事を近隣の複数の高校や地域の小中学校と共同で開催したりするなどで多様な学びの機会を創出してはどうか。
94	県立高校の再編問題 ○賢者たる県教委さん、勇気と誇りを持って頑張ってください。 そもそも高校再編をなぜするのですか？少子化による学校小規模化の弊害阻止のためですよね。では、小規模校の弊害とは何ですか？教員配置が特段に少ないことによる教育の貧弱、すなわち、科目選択幅と質の貧弱で、十分な教育が提供できないということですよ。 現在も、多くの高校生は中小規模校で、その被害を受け続けています。13 年後以降もこのまま中小規模校を残していいのですか？手術なら妥協しますか？お金をかけて徹底的に完治を目指しますよ。 高校再編は大きな手術を要する喫緊の課題です。お医者様の県教委は、関係ない地域の活性化とか過疎化懸念とかに振り回されず、真の目的の子供ファーストに徹し、良質な教育の機会均等を遂行するために、教育専門機関の誇りを持って、大胆な改革に踏み込んでいただきたい。すなわち、皆が驚く素晴らしい大規模校を、各地に偏りなく配置するという結論を自信と勇気を持って早く表明すべきです。

	県立高校を全て売却する覚悟を決めれば、理想の高校を 6?8 校作することは 10 年を待たず、十分可能です。賢者たる県教委さん、凄高校を富山県民全ての子供に提供すると強く決意してください。 詳細な具体案は持ち合わせていますので、必要あらばいつでもお尋ねください。
95	1 「新時代とやまハイスクール構想」検討会議ではどんな意見がでたのか?という経緯でこの素案がまとまったのか県民には分かりにくいまま進んでいる。
96	「新時代とやまハイスクール」の学校像において、充実した部活動と学校行事とあるが、教員の業務量は多岐にわたり、勤務時間内に終わらず持ち帰り業務をしなければ間に合わないのが現状である。また未経験の部活動に教員をあてがうという校内人事も横行しているのが現状である。部活動はあくまで余暇活動であり、それを行う意欲のある人だけで運営(設備予約から会計を含めて)を執り行うべきであり、未経験の教員をあてがうことは不適切である。部活動の強化は、今の時代にそぐわない。少子化の影響もあり学校単位でのチームが作れない競技も多いではないか。既に全国の自治体で中学校の部活動を地域移行する流れが進んでいる。富山県もまず中学校で地域移行を進めて行き、高校もそれに倣うよう進めるべきである。運動系であれば、地域の実業団やプロスポーツチーム、社会人団体へ連携を呼びかけ、中高生のスポーツを地域全体で面倒見ようにするべきだ。文化系でも社会人団体への呼びかけを強化すべきである。もし、学校の体育館などのリソースを使いたいのであれば、それを貸出すことも認めるべきだ。学校単位で任せるのではなく、県全体でスポーツや文化活動を持続可能なものにするには地域移行しかあり得ない。この箇所について再考を求む。
97	生徒の主体性を確立するためにどのような授業や実習等が必要だと考えていますか。
98	④「令和 20 年度における配置の姿」「各期における配置の姿」では、令和 20 年度の生徒数から逆算して節目節目で、生徒の減少数に応じて、どんな学科構成(教育内容)を、どんな規模で、どんなエリアに置くかという考え方(バックキャスティング)で計画案が作られている。それらの数字の根拠は何も示されていないばかりか、「適正規模」の検討も行われておらず、平均の募集定員を定める理由や、今ある高等学校をどのように「再編統合」していくかも不明である。少人数学級・学校を目指している時代の趨勢の中で、大規模校を増やすなど、時代に逆行している。
99	伊奈学園総合高校は理想的な学校といえるのか?「活気」は部活動による影響の部分が多い。教員配置は不十分。持ち授業時間数は探究、HR を除いて 16.5 時間。普通教科の非常勤講師も多い。教員を国並みの数しか置かないという考え方。(埼玉県も富山県同様に定数内講師、定数崩しの実態あり。)4 クラス 2 校より 8 クラス 1 校、4 クラス 3 校より 12 クラス 1 校の方が総教員数は少なく済む。教育にお金を掛けないというのが県の方針なのか。大人数の生徒が切磋琢磨?は古い県立高校像。もっと個々を大切に教育を。「募集定員=入学受け入れ上限人数」という位置づけを明確化すべき。定員割れで騒ぎすぎ。それを口実とした統廃合はやめよ。
100	【今後の学級規模の見通し】「13 年後も 1 学級 40 人の学級規模とはならないのではないか。その場合、今の再編案でいいのか」
101	生徒数の減少に伴い、各学校の学級数が減少することで、学校ごとの教員配置数が減る。そうなると、質の高い教育が提供できないという課題を解決するために、高校再編が必要となっているが、通学できる学校が遠くなると不便となり、通学しやすい場所へと人がどんどん流れていくことが予想される。そうなると、人口が集中する地域と過疎化が進む地域の差が激しくなり、富山県の経済(地域産業)、観光資源などが崩壊する危険性があると考え。最近のオンライン授業などを積極的に活用し、どの場所に住んでいても、自分が学びたいことを学べるシステムを構築することがよいと考える。例えば、居住地に近い A 高校に通いながら、学ぶ内容は、遠く離れた B 高校の内容をオンライン授業で学べる。通っている高校は同じでも、学習している内容は、a さんは普通科、b さんは農業科、c さんは商業科など様々。これまでのように学科ごとに高校を分けるのではなく、居住地の近くの学校に通えば、どの学科の内容でも選んで学べるチャンスがある。生徒が通う学校を選ぶ観点は、近くの学校の中から部活動など、放課後の活動。これまでは、野球なら富商に進学するみたいな選び方をし、本当は普通科の内容を学びたかったのに商業科の学習をしなければいけなかったということにならない。学びたいことは違えども、同じ野球を愛する仲間が集い、切磋琢磨できる学校へと変革できると思う。
102	県は、今後、武道館、高岡テクノドーム別館、警察署の再配備、場合によっては新県庁舎の建設など「箱モノ」の建設が控えている。資材費高騰の折、予算措置は大丈夫なのか?
103	定時制・単位制高校の再編はどのように計画されているのか? 現状の議論では、再編の対象となっているのは全日制高校に限定され、定時制・単位制高校は含まれていないように感じられます。 定時制・単位制高校についてどのような計画なのかも明らかにしてほしい。また、小規模校を維持してほしい、という要望も寄せられており、この対応については定時制・単位制高校のあり方と合わせて検討すればいいのではないのか? 全日制高校に限らず、定時制・単位制高校も高校なので、同様に検討してほしい。
104	現在の高校「再編」は、「魅力と特色のある学校づくり」「子どもが減るから高校を減らす」といった論調を流布し、「まず再編統合ありき」になっている。また、直面している教員不足・欠員・不登校・いじめ等の教育困難な状況・条件整備などの課題に対し、子どもの現状に基づく分析もされないまま無理矢理進められている。さらに、40 人学級を前提とした学級数を再編対象の学校規模としており、少人数学級の拡充など全く検討されていない。むしろ従来の「4 学級未満・160 人未満」から「再編統合」の対象校の拡大に道を開くものになっている。「定員割れ=受けたくない高校=魅力のない高校→学科の構成等を見直す」というのではなく、教師の働き方、子どもを権利主体として学習権行使が保障されて

	いない仕組み、学校が辛い場所・生きづらい場所になっている要因を明らかにしながら、子どもにとっても教師にとっても楽しいところ、人間らしい働き方ができるところにしてい くために、何をすることが必要かということを時間をかけじっくり議論することが必要である。 「新時代 HS」は、余りにも乱暴で理不尽な高校潰し計画だといわざるを得ない。県議会で知事は「すべての高校が再編統合の対象になる」と答弁しているが、不安と混乱を引き起こすだけである。こうした理念の上に形作られた「新時代 HS」は、直ちに白紙に戻し再検討されたい。
105	・子どもが減るから教育予算も教職員も学校も減らすという県の県立高校軽視の姿勢に基づく方針案に全面的に反対。 ・県はどれだけのお金を県立高校再編、県立高校教育にかける気があるのか。財政的な見通しを金額で示すべき。 ・今後 13 年間の各年度の教員配置数をどうしていくか。その予定を、職種、担当教科、正規・非正規、その計画を示すべき。高校再編は教員の確保がなければ絵に描いた餅。実現可能な絵になっているのか全く見えない。
106	再編後の学校名について、普通科も全県一区となった現在、ものは考えようだが、必ずしも地域名や市町名を冠する必要がないのではないかと。全て富山県の高校なのだから。従来の慣例？を脱却して、昭和的思考を排除して、22 世紀世代に向けた発想で命名してほしい。上市高校がキャリア高校と名称変更を提案するように。端的に学びがわかる富山県立中等教育学校とか、グローバル高校とか。ちなみに新潟県には「新潟県立国際情報高校」がある。端的に学びを示す好例かと。
107	少子化問題が深刻化しているため、高校の再編はせざるを得ない対策の 1 つだと思います。再編に伴って通学の仕方が難しくなる人が少なからず見えてくると思います。そのため学校までのバスや電車の確実な道のりの準備、交通費に関する対策が必要だと感じました。
108	先の基本方針に対する意見に、今後の鉄道の存廃と関連して再編を行うべきとあったが、大いに賛成する。特に富山地鉄の鉄道線の行く末を考慮して通学可能な学校としてほしい。あいの風鉄道線に、最寄り駅を新設してでも通学の便宜を図ってほしい。子どもファーストを貫く意味でも。
109	再編とともに 1 つの学校に固まった際に他の使うことのなくなった学校の使い道をより良い方向へと変えていくことが今後の富山県の発展に繋がってくるように思いました。
110	来年度県立高校募集定員の問題点 ・過去 4 年間の定員割れを理由とする機械的な学級減。せっかく進んだ少人数学級が 40 人学級に逆戻り。入善・上市・八尾・富山西・伏木の 5 校には、引き続き県単独措置の教員配置が必要。 ・県立高校冷遇予算 事業費ベースでなんと前年度比 -22% 削減。 ・R8 年度学科編制の「新しい考え方」は来年度以降も生きているのか。この 3 年間学科編制方針が場当たり的にばらばら。定員割れを理由とする機械的な学級減はやめるべき。3 期の再編の間の各 4 年間の生徒減にはどう対処するのか。振興検討会議の提言で求められた「少人数学級の研究」を全くやらずに、これまでやってきた少人数学級の検証と評価を全くやらずに、この 2 年間に進めた少人数学級を職業系専門学科を除いてすべてやめたことは、教育条件の大幅な後退である。今後どうするかの方針も全く示されていない。少人数学級拡充を方針の基本にしっかり位置付けるべき。 ・現在の 40 人未満の少人数学級をどうするのか。全部 40 人に戻すのか。素案では 4 校の小規模校以外は全て 40 人学級が前提となっている。 ・R8 年度、2 年間拡充した 40 人未満の少人数学級を農業・工業以外すべてやめた理由は？県単 16 名をこれ以上増やさず R9、R10 で 0 にするのか？ ・R8 年度入学生に対する 5 校への県単措置が必要。 ・R6、R7 入学生への県単措置 16 名は当然継続すべき。 ・R8 年度、少人数学級を継続する魚津工業、中央農業、砺波工業には、来年度 1 学年に対応する県単独措置の加算が必要である。 ・「充実のための新たな取り組み」であるならば、そのための資源の投入は当然。R23 年度までの県単加配を想定すべき。県の財政的な姿勢が全く示されていない。子どもが減るから教育予算を減らす。統廃合してもっと減らすということか。今年度の県立高校一人負け予算（事業費 22% 削減）に「国並み以上のことはやらない」という県の姿勢が表れている。生徒用 1 人 1 台端末の混乱。県の無責任さ。
111	・コロナ感染後に学校の中身（行事、管理職を含む教員、保護者の考え方など）の変化を期待したが何も変わらなかったというのが市井の一人としての感慨である。外からの絶好のチャンスを逃したと思う。せめて、この高校再編を機に学校のあり方を少しでも変えていただきたい。 ・まずは、高校入試である。従来の推薦入試は必要なのか。選考方法も面接と想定可能な簡単な作文であり、形骸化している。定員の半数しか一般入試の募集にならない現状では受験生は二の足を踏むのではないかと。いっそ、推薦を廃止して、一般入試に第 2 希望を認めることや、一般入試の募集締切り後に変更を認めるなどした方が中学生の 15 歳の重圧を軽減できるのではないかと。 ・入試教科も、国語の作文は何十年も続けられているが、果たして実際に自分の思いを明確に他者に伝える力をつける一助となっているのか、入試作文はそれを試すものになっているのか。中学校教員側の率直な思いを聴取してみたいだろうか。説明文問題に自分の考えを述べる形の設問を設けるなど、他に試しようがないのだろうか。

	・英語のリスニングも、大学の共通テストではウエイトが大きくなってきている。インバウンドで外国人と接する機会が昭和とは格段に増え、富山にいても必要性が増している。大学入試が近年、大きく変わってきている中、高校入試のリスニングも転機を迎えている。これについても中学校教員側の率直な思い、指導の現状を聞いてほしい。 ・各教科の配点割合についても、再検討が必要と考える。生徒が得意な教科、高校で特に必要な教科を傾斜配点にするなどを示して、中学生が高校入試に少しでも意欲を持って取り組めるようにしていただきたい。大胆に実技教科を取り入れ、その配点ウエイトを高くすることも生徒を活かすことにつながるだろうか。
112	・先の基本方針に対する意見にもあったが、現在の高等支援学校も再編対象に加えることも考えてほしい。普通科と職業科を併設するだけでなく、高等支援学校の課程も同一の学校に併設したらよい。静岡高校にはそのような課程も併設されているとかつて聞いたが。そのメリットは現場教員なら自明であろう。ぜひ、現場の高校教員や高等支援学校の教員の意見も聞いてほしい。
113	公共交通機関の維持が難しくなり、減便・廃線などが深刻化している。１３年後まで公共交通機関はどうなっているのか。高校生は自動車通学ができない。知事や教育委員や検討委員はそのことがわかっているのか。教育長が「自分は高校生の時に片道９０分の通学だったが楽しかった」と言っていたが、あなたが高校生の時よりも公共交通機関の便は悪くなっています。生徒・保護者の悲痛ともいえる声が再編計画案のどこにも反映されていない。通学の便を考えた適正な学校の配置が必要だが、２０校の削減案にはその配慮は全く見えない。大元から考え直すべきである。
114	現在、富山地鉄の廃線問題も大きな課題となっている。この問題とも絡み合わせて考える必要がある。
115	先の基本方針に対する意見に多く見られた２０人程度の少人数学級だが、国の法律が変更されない限り実現は不可能である。国の手当がない中で学級数が増える分の教員の人件費は県が負担しなければならないが、喫緊の災害対応、道路、インフラのメンテナンスなど安全や生活に直結する支出が増大する中では県費負担教員の増加は難しいと思われる。
116	少人数学級によるきめ細やかな教育を進めてほしい。→高校数を減らした分だけ職員の数を減らすということは絶対にやめてください。４０人学級では多様な生徒の個別指導はかなり難しく、質の高い教育は無理です。少人数学級を基本とした再構築を進めていただき、よりきめ細やかな教育、教員と生徒の信頼関係が築きやすい環境になるようお願いします。国や他県と足並みをそろえてやるのではなく、教育県富山として先進的に行うことを強く期待しています。
117	・誰のための、何のための再編なのか。全く分からない。 ・少人数学級の拡充方針をわずか２年で放棄した県教委の変節は、県民の願いを裏切るもの。断じて許されるものではない。振興検討会議提言が求めた「少人数学級の研究」が全く行われていない。これまでやってきた少人数学級の検証が全く行われていない。ワークショップ、意見交換会、若手教員意見交換会と本当に多くの少人数学級を願う意見を完全に無視している。進め方が全く丁寧ではない。

118	生徒・保護者・教職員といった学校教育の当事者を隅に追いやった再編論議は間違っています。教育行政の中立性の確保の原則に立ち返って、知事は高校再編の議論の中心から一步引き下がるべきです。教育委員会は知事や一部の教育委員の意向に付き従うのではなく、教育当事者の声に真摯に耳を傾け、教育学の知見を踏まえた高い見識を示すべきです。検討委員の構成は経済界の代表に偏っており、現役の高校教員と高校生の保護者は1名も入っていません。会議が非公開で行われているため、議論の過程が不透明です。当事者を締め出し、県民に議論が見えない進め方は間違っています。 「新時代とやまハイスクール構想」基本方針が掲げる2028年度頃に4～6校程度を開設する第1期の再編を行うには、来年2月までに再編計画を確定させなければなりません。しかし、第1期の再編の検討は全く進んでいません。13年後の目指す姿が描けていないため、そこから逆算的に5年前、10年前の再編を計画するバックキャスト手法は完全に破綻しています。この状態で大規模校の設置方針と第1期の再編の設置方針を8月中にも決定するなどということは暴挙です。絶対にしてはなりません。知事は検討の最前線から一步下がること。当事者を検討委員に入れること。段階的の少人数学級の拡充を基本目標に掲げ、子どもが減っても教育予算と教員は減らさないという基本方針を確立すること。そのために、国の責任による高校での少人数学級の実現に県は尽力するとともに、県の努力で教員数の維持に努めること。当事者を排除した無責任で専門性と見識を欠く検討の進め方を見直すこと。県立高校の今後のあり方について、現在進められている検討の方向性の抜本的見直しを求めます。 県当局が今すぐ取るべき措置として、つぎの2つを強く要請します。 来年度の県立高校募集定員について、「近年の中学校別志願状況」に縛られた機械的な学級数・募集定員の決定方針を撤回し、募集定員を減らさず、少人数学級を拡充すること。 1、高校再編について、大規模校の設置方針の検討を一旦凍結し、第1期の再編の検討は2028年度開始にとられず、慎重に進めること。これまでも少人数学級の拡充など、行き届いた教育を進める施策を求め続けてきました。今こそ県民みんなが声を上げるべき時です。富山県の県立高校教育を県民の手に取り返すために、広範な県民運動を起こさなければなりません。私たちは、県民的な議論と運動を喚起するための意見の発信と取組みを今後も力強く進める決意です。 2、高校再編について、大規模校の設置方針の検討を一旦凍結し、第1期の再編の検討は2028年度開始にとられず、慎重に進めること。 (1)「新時代とやまハイスクール構想」検討会議の委員構成を見直すこと。 教育行政の中立性の確保の原則に立ち返って、知事は諮問する側に回ること。 現役の高校教員と高校生の保護者代表、高教組役員を委員に加えること。 (2) 会議をすべて公開とすること。 (3) 段階的の少人数学級の拡充を基本目標に掲げ、子どもが減っても教育予算と教員は減らさないという基本方針を確立すること。そのために、国の責任による高校での少人数学級の実現に県は尽力するとともに、県の努力で教員数の維持に努めること。 (4) 今後の県立高校のあり方の検討にあたっては、教育の内容が主、数は従という原則に立ち、もっと高校現場の声を聞いて、慎重に進めること。 (5) 基本方針が示す令和20年度の学校数、大・中・小規模の生徒数に縛られることなく、基本方針を抜本的に見直すこと。 (6) 13年後からの逆算だけではなく、今の中学3年生、中学2年生、中学1年生が学ぶ学校をどうして行くのかを真剣に考え、目の前の子どもたちに責任を持つ教育行政を行うこと。 (7) 高校生の通学の便を保障するため、県として公共交通機関の維持に努めるとともに、通学費に対する県の助成を検討すること。
119	・知事は諮問する側に回るべき。行政委員会としての教育委員会制度のあり方として、知事が介入しすぎている。根本的に間違っている。 ・やたらと非公開で協議をしているのは完全にアウト。検討会議が総合教育会議の隠れ蓑に使われている。県民から見て、不透明な密室の協議で策定された高校つぶし計画を承認することはできない。会議を公開にすること。議事録を公表すること。 ・経済界に偏った委員の人選を是正すべき。現役の高校教員、現役の高校生の保護者、子ども（高校生・中学生・小学生）といった当事者がすべて委員から排除されている。当事者を委員に入れるべき。 ・検討の姿勢が間違っている。知事は丁寧に進めてきたというのがウソである。あり方委員会報告、振興検討会議提言、ワークショップ、アンケート、意見交換会、パブコメ。意見だけ出させて全くそれらを無視した実施方針（素案）をまとめている。総合教育会議の全委員が不適格である。
120	平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。「新時代とやまハイスクール構想」について生徒と話していたところ、出た意見を記させていただきます。まず初めに、我が校、富山中部高校は対象外として頂けないかという提案です。本校は富山県内随一の進学校であり、トップの偏差値と本校独自のアイデンティティを確立しております。新しい学校を設立するのであれば賛成ですが、設立のために、富山中部高校が他校と合併または吸収されるなどして、学校が変わるまたはなくなるのであれば強く反対します。次に、今回の素案は「学校再編」と関係があるのかわかりませんでしたが、この件についても、上記の理由と富山中部高校は定員が未だ割れておらず、中学生にとって高い需要を保っているという点で反対

	します。しかしながら、先述の通り、富山中部高校を含めた各高校の設備等を充実させ、魅力を向上させることは賛成です。どうぞよろしくお願い申し上げます。長文失礼致しました。
121	小規模校 高等支援学校 就職希望をかなえる支援体制、一人一人のニーズにあわせた就職を手厚くサポートして欲しい！！富山県で働いて健康にずっと暮らすために県が受け入れ企業を増やしてサポートをする。健康に暮らすために高校の部活でプロの方とコラボ企画をする。
122	生徒一人一人に寄り添う教育が必要だと思う。
123	教育は効率ではないので、費用対効果を求めないように気をつけていけばよいのではないかな。
124	現場の様子をハイスクール構想を立案しているメンバーはご存知でしょうか？誰か休職しても、代員はすぐには来ません。残ったメンバーで仕事を分担するのです。県立高校に勤務する私がなぜ、県の案に反対するのか？それは、この計画が現場のことを知らない人が「始めに結論（20校）ありき」で考えた机上の空論にしか見えないからです。閉校した福光高校の校舎に福井県の青池学園が通信制の高校を開校したそうです。学費はもの凄く高いそうですが、不登校の保護者は仕方なく通わせているそうです。矛盾を感じます。この30年で残念ながら教員は全く魅力的な仕事ではなくなりました。生徒も保護者も学校に様々な要求を突きつけて来ます。遅刻して来た生徒を注意する際にも声かけに配慮しないと「パワハラ」扱いされます。「遅れたけど頑張ってきたね。待っていたよ」が令和の時代…。これで良いのか、迷いながらの毎日です。高校再編には時間をかけての検討を願います。一度閉校にしてしまってから再興するのは難しいですから。
125	高校再編に関わる教員定数増について 5年ごとに学校の再編を3期にわたって行う案の場合、ルーティンの仕事以外に、教育課程や育てる生徒の姿の共有や、部活動や地域で求められている活動についてなど、ソフト面の会議が増えます。それが15年続くと現場の教員は疲弊して、生徒に向き合う時間がますます減ります。定員増をお願いします。
126	大きい学校を作ったり、アニメーションの学科を作るという構想が出ていますがその構想は子供のことしか考えていないと感じました。普通教員も足りていないし、専門学科となるとさらに教員不足が進んでいることが分かります。この構想を実現すると今いる教員の過重労働が目に見えています。なのでまずは教員の新人教育を積極的に行うべきだと感じました。
127	学校ごとに設定された「特色」を選ぶことは「新たな適格者主義」に他ならない（注1）。しかし、子どもたちの興味関心・能力・適性・進路がこうした「特色＝類型化」で括れるわけではない。公立高校の役割は、どの地域にあっても、基礎学力や自治活動など高校生として必要な学びの場を保障することである。求められているのは、多様な子どもたちに対応するために多様な高校を作ることではない。 「新たな適格者主義」は、入学者選抜という「入口」だけに横たわっている問題ではない。高校教育全体、さらには「出口」の問題、高等教育での学び、若者の雇用や社会的支援のあり方など多岐にわたっている。「適格性」にあてはまらない若者を「自己責任」の名で切り捨てていく、そういった新自由主義的な社会のあり方を問い直さなければならない。高校生を含めた若者の問題を学校、あるいは教育という枠の中だけで捉えていては根本の課題は見えてこない。「社会全体で学びを支える」とは、学校の内外を問わず、すべての若者の成長と発達の権利を保障することに他ならない。 注1）もともと「適格者主義」とは、1963（昭和三八）年の「公立高等学校入学者選抜要項」（初等中等局長通知、以下「六三通知」）において、「高等学校の教育課程を履修できる見込みのない者をも入学させることは適当ではない」とした上で、「高等学校の入学者の選抜は、…高等学校教育を受けるに足る資質と能力を判定して行うものとする」と規定した。その後、進学率が94%に達した1984（昭和五九）年の通知（以下「八四通知」）では、「高等学校の入学者選抜は、各高等学校、学科等の特色に配慮しつつ、その教育を受けるに足る能力・適性等を判断して行う」とあらためた。 この変更について、行政側は「高等学校の入学者選抜は、飽くまで設置者及び学校の責任と判断で行うものであることを明確にし、一律に高等学校教育を受けるに足る能力・適性を有することを前提とする考え方を採らないことを明らかにした」と説明している。つまり、「六三通知」にいう「適格者主義」はとらないとしている。 確かに表現は異なるが、「六三通知」は高等学校教育全体への「適格性」を問うものであるのに対して、「八四通知」は「各高校の特色に応じた適格性」を問うものに変化している。高等学校教育の多様化と各高校の特色化に対応し、その「特色」への「適格性」を持った生徒を集める発想である。これは、「適格者主義」を放棄したのではなく、多様化のもとの「新たな適格者主義」に他ならない。それは、文科省「新しい時代の高等学校教育の実現に向けた制度改革について（令和3年4月21日）」を経て、新自由主義に基づく「新時代HS」へと踏襲されている。

128	最後に、(素案)とは無関係ですが、自民党 PT の指摘についてひとこと述べます。彼らは偏差値による学校間の序列化を問題視していますが、これは入学者選抜を実施している以上、不可避の現象です。県内の中学校間に学校間格差があるとは聞きません。住所によって、通う中学校が決められているからです。選択の余地がないからです。高校も大学も進学先を自由に選べるようにすると、志願者が偏るようになり、序列が生まれてしまいます。世の習いです。県立高校の序列化をなくしたいと真剣に考えるなら、くじ引きで進学先を決めるなど、選択の余地をなくす以外に方法がないと思います(住所で決めると、今度は住所を移す者が必ず出てきます)。
129	ない
130	特になし